

令和元年版



交 通 白 書
ダ イ ジ ェ ス ト

守るあなたも

金
美ら島2020
メダル

STOP!!
飲酒運転

モデル・池田夏海
所屬事務所・ライジングプロダクション

交通ルール

沖縄県警察・沖縄県交通安全協会連合会

沖 縄 県 警 察

は し が き

令和元年中の本県の交通事故（人身事故）は、

発生件数 4,075件（前年比 -360件）（増減率 - 8.1%）

死者数 36人（前年比 - 2人）（増減率 - 5.3%）

負傷者数 4,861人（前年比 -457人）（増減率 - 8.6%）

で、前年に比べ、発生件数、死傷者数ともに減少し、平成24年以降8年連続で減少したほか、死者数は統計史上最少（平成26年と同数）となりました。

しかしながら、飲酒絡み事故は7年振りに増加し、2年連続全国ワーストを脱却していた人身事故に占める飲酒絡みの人身事故の構成率がワースト1に転落となるなど本県の交通情勢は依然として厳しい現状にあります。

また、これらの交通事故の多くは、追突や出会い頭、右左折事故によるもので、交通事故全体の約7割を占めています。

特徴としましては、

- ① 交通事故に占める飲酒絡み事故の構成率が高い（全国平均の約2.6倍）
- ② 死者に占める二輪車乗車中の構成率が高い（全国ワースト1）
- ③ 若年者（16歳～24歳）運転者の死亡事故の構成率が高い（全国ワースト3）
- ④ 交差点事故の構成率が、人身事故の約5割を占める

などが挙げられます。

こうした状況を踏まえ、沖縄県警察としましては、「日本一交通安全な沖縄県」を実現するため、令和2年の交通警察活動の重点を

飲酒運転根絶及び交通事故抑止対策の推進

と定め、

「交通ルール 守るあなたも 金メダル」

を年間スローガンに掲げ、飲酒絡みの事故や二輪車・若年者の事故、高齢者の事故等の総合的な交通事故抑止対策を定めた

交通事故抑止総合プラン「美ら島2020」

に基づいて、県や市町村、交通関係機関・団体と連携を強化して

「飲酒運転をしない させない 許さない社会環境づくり」

などの各種交通事故抑止対策を積極的に推進しているところであります。

県民の皆様には、交通事故のない安全で安心な交通社会を実現するために、交通ルールを遵守し、正しい交通マナーを実践して交通事故防止に努めていただきますようお願いいたします。

交通白書ダイジェスト版は、県民の皆様方に県内の交通事故の実態を知っていただき、悲惨な交通事故を防止するため今後の交通安全対策の資料として活用していただければ幸いです。

令和2年3月

沖縄県警察本部交通部

用語の意味

本書における用語の意味は、下記のとおりである。

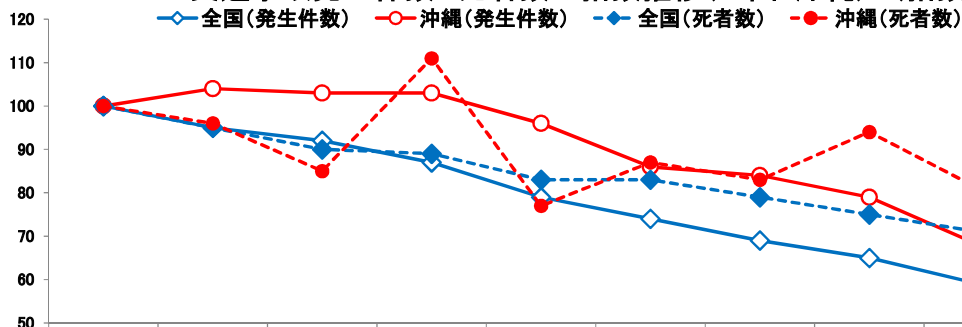
- 1 「交通事故」とは、道路交通法第2条第1項第1号に規定する道路において、車両、路面電車及び列車の交通によって起こされた事故で、人の死亡又は負傷を伴うもの(人身事故)並びに物損事故をいう。
※ 本書(交通白書ダイジェスト版)では、人身事故を交通事故と表現しています。
- 2 「死亡」(「死者」)とは、交通事故によって、発生から24時間以内に亡くなった場合(人)をいう。
- 3 「重傷」(「重傷者」)とは、交通事故によって負傷し、1箇月(30日)以上の治療を要する場合(人)をいう。
- 4 「軽傷」(「軽傷者」)とは、交通事故によって負傷し、1箇月(30日)未満の治療を要する場合(人)をいう。
- 5 「負傷」(「負傷者」)とは、「重傷」(「重傷者」)と「軽傷」(「軽傷者」)の合計をいう。
- 6 「第1当事者」とは、最初に交通事故に関与した車両等の運転者又は歩行者のうち、当該交通事故における過失が重い者をいい、また同程度の場合には被害が軽い者をいう。
- 7 「事故類型」とは、事故を当事者の種類(人または車両)によって類型化し、次いで当事者の事故時の行動等(動き、位置、衝突物等)によって更に細かく分類したものである。
- 8 「状態」とは、当事者の事故時の状態(自動車運転中、自動車同乗中、歩行中等)をいう。また「乗車(用)中」とは、運転中と同乗中の合計をいう。
- 9 「昼」とは、日の出から日没までの間をいう。
うち「昼明」は、日の出から1時間以内の範囲、「昼暮」は日の入前の1時間以内の範囲をいう。
- 10 「夜」とは、日没から日の出までの間をいう。
うち「夜暮」は、日の入後の1時間以内の範囲、「夜明」は日の出前の1時間以内の範囲をいう。
- 11 「歩行者」とは、道路上を歩行中、又は走行中の人をいう。
(道路作業中の者、路上遊戯中の者、路上にたたずんでいる者も含む)
- 12 「若年者」とは、年齢が16歳～24歳の者をいう。
- 13 「子供」とは、中学生以下の者をいう。
- 14 「高齢者」とは、年齢が65歳以上の者をいう。
- 15 構成率とは、全体(総計)に占める各項目等の割合をいう。
- 16 指数は、平成22年を100とした場合の令和元年の値をいう。

目 次		
第1	交通事故の発生状況の推移と特徴	4
1	交通事故発生状況推移(全国・九州比較)	4
2	沖縄県の交通事故発生件数・死者数・負傷者数の推移	5
3	市町村別交通事故発生状況及び居住地別飲酒運転検挙状況	7
4	飲酒絡み事故発生状況	10
5	二輪車事故発生状況	11
6	レンタカー事故発生状況	12
7	自転車事故発生状況	13
8	歩行者の事故発生状況	14
9	子供(中学生以下)の事故発生状況	15
10	高校生の事故発生状況	16
11	若年者(16歳～24歳)の事故発生状況	17
12	高齢者(65歳以上)の事故発生状況	18
13	外国人関連事故発生状況	19
14	路上横臥事故発生状況	20
第2	令和元年中の交通事故発生状況	21
15	月別発生状況	21
16	時間帯別発生状況	21
17	曜日別発生状況	22
18	昼夜別発生状況	22
19	路線別発生状況	23
20	道路形状別発生状況	23
21	交差点事故発生状況	24
22	事故多発交差点	24
23	事故類型別発生状況	25
24	年齢層別発生状況	25
25	法令違反別・年齢層別発生状況	26
26	年齢層別死傷者の状況	26
27	状態別死傷者の状況	27
28	シートベルト着用状況	27
第3	交通指導取締状況	28
29	交通違反検挙状況	28
30	暴走族等検挙状況	29
31	ひき逃げ発生検挙状況	29
第4	運転免許	30
32	運転免許人口の推移	30
33	点数制度	30
34	行政処分執行状況の推移	30
35	運転免許証自主返納制度	31
36	高齢者講習と認知機能検査	31
第5	交通規制、交通安全施設	32
37	一般道路の交通規制実施状況	32
38	信号機の設置状況	33
第6	各種交通事故防止対策	34
39	飲酒絡み事故防止対策	34
40	二輪車事故防止対策	36
41	子供の事故防止対策	37
42	自転車事故防止対策	38
43	高齢者の事故防止対策	39
44	シートベルト・チャイルドシート着用促進対策	40

第1 交通事故の発生状況の推移と特徴

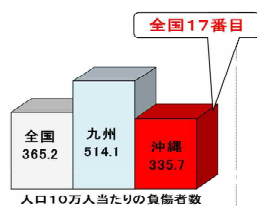
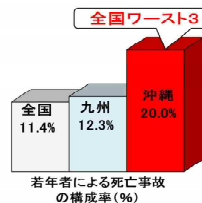
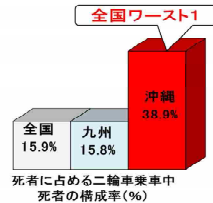
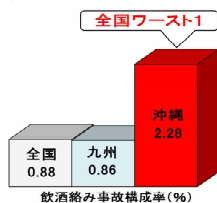
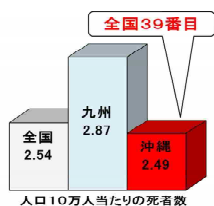
1 交通事故発生状況推移(全国・九州比較)

交通事故発生件数と死者数の指数推移(全国・沖縄) (指数)



	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
全国(発生件数)	725,924	692,084	665,157	629,033	573,842	536,899	499,201	472,165	430,601	381,237
沖縄(発生件数)	6,501	6,788	6,697	6,664	6,242	5,621	5,491	5,168	4,435	4,075
全国(死者数)	4,948	4,691	4,438	4,388	4,113	4,117	3,904	3,694	3,532	3,215
沖縄(死者数)	47	45	40	52	36	41	39	44	38	36

令和元年中の交通事故発生状況



※「人口当り」は10万人当りの算出に用いた人口は総務省統計資料「人口推計」(平成30年10月1日現在)による。

全国・九州比較

県内の交通事故による死者数は、人口10万人当たりで全国39番目(2.49人)、負傷者数は全国17番目(335.7人)ですが、交通事故発生件数は、全国では15年連続で減少し、本県は8年連続の減少となりました。

県内の交通事故の特徴

県内の交通事故の特徴としては、

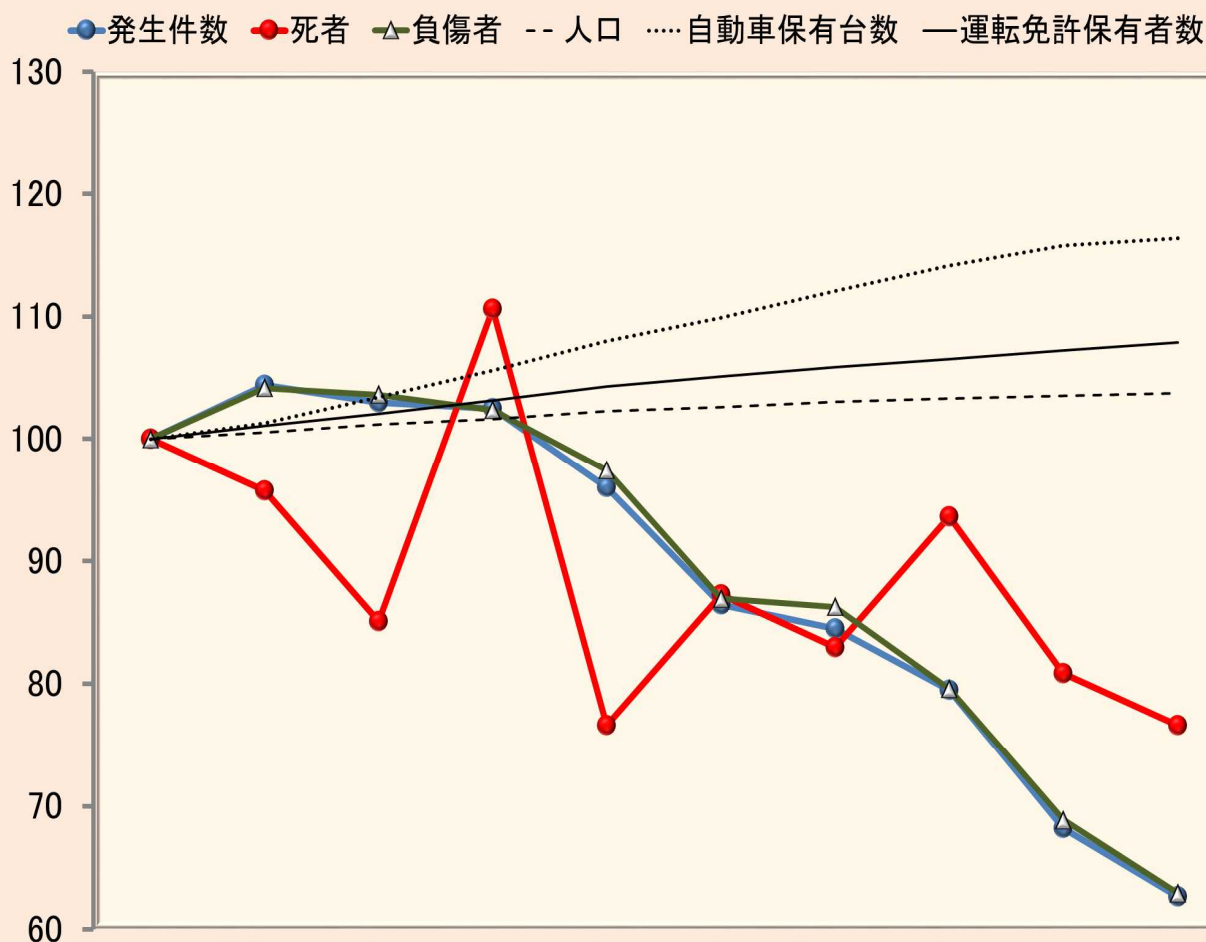
- 交通事故に占める飲酒絡み事故の構成率が高く、全国ワースト1
- 死者に占める二輪車乗車中死者の構成率が高く、全国ワースト1
(負傷者に占める二輪車乗車中の負傷者の構成率は全国6番目)
- 若年者(16歳～24歳)が原因となった死亡事故の構成率が高い(全国ワースト3)
- 全事故の56.1%が交差点において発生(全国平均54.9%より高い)

総合的な交通事故抑止対策

沖縄県警察では、令和元年の交通事故発生状況を踏まえ、交通事故のない安全で安心な「美ら島沖縄」を目指し、総合的な交通事故抑止対策として交通事故抑止総合プロジェクト「美ら島2020」を定め、飲酒運転事故防止対策などの各種事故防止対策を推進しております。

2 沖縄県の交通事故発生件数・死者数・負傷者数の推移

交通事故発生状況の推移(指数)



注1 人口は、住民基本台帳による。

2 車両台数は国土交通省統計資料「自動車保有車両数月報(各年12月末、令和元年は6月末)」による。
(排気量125CC以下の原付一種・原付二種・小型特殊車両は含まない。)

3 運転免許保有者数は、警察本部運転免許課の資料による。

4 上記グラフの指数は、平成22年を100とした場合の各年の値。

沖縄県では、人口、自動車保有台数、運転免許保有者数が年々増加しているが、交通事故は8年連続で減少しました。

交通事故発生状況の推移(昭和22年～令和元年)

年	交通事故発生件数		死者数		負傷者数	
		指数		指数		指数
昭和22年	-	-	106	86	264	8
23年	-	-	55	45	152	4
24年	-	-	62	50	211	6
25年	-	-	93	76	441	13
26年	-	-	105	85	485	14
27年	-	-	89	72	469	14
28年	-	-	107	87	643	19
29年	-	-	72	59	570	17
30年	-	-	51	41	630	19
31年	-	-	97	79	681	20
32年	-	-	76	62	780	23
33年	-	-	78	63	1,058	31
34年	-	-	65	53	1,043	31
35年	-	-	83	67	1,315	39
36年	1,284	49	84	68	1,416	42
37年	1,194	46	70	57	1,308	39
38年	1,201	46	75	61	1,396	41
39年	1,197	46	73	59	1,391	41
40年	1,618	62	86	70	1,890	56
41年	1,943	75	94	76	2,322	68
42年	2,069	80	98	80	2,486	73
43年	2,122	82	83	67	2,585	76
44年	2,308	89	91	74	2,825	83
45年	2,460	95	94	76	3,044	90
46年	2,426	93	82	67	3,018	89
47年	2,838	109	105	85	3,647	108
48年	2,602	100	123	100	3,391	100
49年	2,271	87	121	98	2,860	84
50年	1,969	76	107	87	2,405	71
51年	1,896	73	100	81	2,284	67
52年	1,991	77	77	63	2,390	70
53年	1,644	63	71	58	1,962	58
54年	1,576	61	66	54	1,860	55
55年	1,651	63	82	67	1,962	58
56年	1,540	59	80	65	1,869	55
57年	1,899	73	107	87	2,282	67
58年	2,435	94	82	67	2,818	83
59年	2,654	102	87	71	3,122	92
60年	2,401	92	63	51	2,799	83
61年	2,471	95	83	67	2,802	83
62年	2,521	97	78	63	2,840	84
63年	2,694	104	80	65	3,128	92
平成元年	2,839	109	93	76	3,259	96
2年	2,926	112	100	81	3,469	102
3年	3,234	124	94	76	3,742	110
4年	3,336	128	109	89	3,903	115
5年	3,169	122	115	93	3,743	110
6年	3,096	119	82	67	3,665	108
7年	2,928	113	100	81	3,492	103
8年	2,944	113	77	63	3,407	100
9年	3,118	120	90	73	3,626	107
10年	3,805	146	80	65	4,389	129
11年	3,904	150	65	53	4,443	131
12年	4,294	165	79	64	4,877	144
13年	5,115	197	78	63	6,163	182
14年	5,759	221	61	50	6,958	205
15年	6,127	235	79	64	7,352	217
16年	6,512	250	61	50	7,752	229
17年	6,519	251	63	51	7,839	231
18年	6,653	256	62	50	8,071	238
19年	6,525	251	43	35	7,852	232
20年	6,509	250	43	35	7,664	226
21年	6,324	243	47	38	7,524	222
22年	6,501	250	47	38	7,722	228
23年	6,788	261	45	37	8,045	237
24年	6,697	257	40	33	8,003	236
25年	6,664	256	52	42	7,906	233
26年	6,242	240	36	29	7,523	222
27年	5,621	216	41	33	6,714	198
28年	5,491	211	39	32	6,661	196
29年	5,168	199	44	36	6,145	181
30年	4,435	170	38	31	5,318	157
令和元年	4,075	157	36	29	4,861	143

← 復帰 47年から全国統計に含まれる
 ← 死者数が過去最多の年
 ※昭和48年を100として指数を算出

← 統計上、初めて死者数が50人を下回る

← 統計上、最多の事故発生件数

← 7年振りに死者数が50人を上回る

← 統計上、最も少ない死者数

← 13年振りに6,000件を下回る

← 統計上、二番目に少ない死者数

← 統計上、最も少ない死者数(平成26年と同数)

3 市町村別交通事故発生状況及び飲酒運転検挙状況

市町村別人口1万人当たりの死傷者数

市町村別		区 分	人 口	発生件数	死 者 数		負 傷 者 数	
					人口1万人当たり		人口1万人当たり	
市 部	那 覇 市		322,624	1,091	8	0.25	1,252	38.8
	豊 見 城 市		64,436	106	2	0.31	134	20.8
	糸 満 市		61,811	99			119	19.3
	南 城 市		43,945	76	1	0.23	86	19.6
	浦 添 市		114,531	366			429	37.5
	宜 野 湾 市		98,689	288	1	0.10	344	34.9
	沖 縄 市		142,217	460	2	0.14	547	38.5
	う る ま 市		123,976	241	5	0.40	272	21.9
	名 護 市		63,161	183	2	0.32	248	39.3
	宮 古 島 市		54,625	107	2	0.37	126	23.1
	石 垣 市		49,562	88			103	20.8
	小 計		1,139,577	3,105	23	0.20	3,660	32.1
町 部	久 米 島 町		7,873	3			3	3.8
	八 重 瀬 町		31,338	52			64	20.4
	南 風 原 町		39,348	135			164	41.7
	与 那 原 町		19,810	75	2	1.01	93	46.9
	西 原 町		35,322	97			112	31.7
	北 谷 町		29,097	148	1	0.34	178	61.2
	嘉 手 納 町		13,681	28	1	0.73	33	24.1
	金 武 町		11,573	38	2	1.73	45	38.9
	本 部 町		13,234	22	1	0.76	29	21.9
	竹 富 町		4,343					
	与 那 国 町		1,716	1			1	5.8
	小 計		207,335	599	7	0.34	722	34.8
村 部	渡 嘉 敷 村		725					
	座 間 味 村		942					
	粟 国 村		701					
	渡 名 喜 村		378					
	南 大 東 村		1,248					
	北 大 東 村		591					
	中 城 村		21,284	52			69	32.4
	北 中 城 村		17,345	124			149	85.9
	読 谷 村		41,446	67	2	0.48	77	18.6
	恩 納 村		11,038	48	1	0.91	72	65.2
	宜 野 座 村		6,071	9			10	16.5
	国 頭 村		4,746	9	1	2.11	12	25.3
	大 宜 味 村		3,089	1			2	6.5
	東 村		1,805	3			3	16.6
	伊 平 屋 村		1,251					
	伊 是 名 村		1,430					
	今 帰 仁 村		9,411	11	1	1.06	15	15.9
	伊 江 村		4,593	1			1	2.2
	多 良 間 村		1,172					
	小 計		129,266	325	5	0.39	410	31.7
総 計			1,476,178	4,029	35	0.24	4,792	32.5
沖縄自動車道等			-	46	1	-	69	-

※人口は、平成31年1月1日の住民基本台帳による。

市町村別飲酒絡み事故発生状況

市町村別飲酒絡み事故発生状況

区分 市町村別	全事故	市町村内発生飲酒絡み事故				率	人口	1,000人 当たり率
		死亡	重傷	軽傷	計			
市	那覇	1,091	3	23	26	2.38	322,624	0.08
	豊見城	110		1	1	0.91	64,436	0.02
	糸満	99		1	1	1.01	61,811	0.02
	南城	76	1		1	1.32	43,945	0.02
	浦添	370	1	5	6	1.62	114,531	0.05
	宜野湾	288		8	8	2.78	98,689	0.08
	沖縄	468	1	12	13	2.78	142,217	0.09
	うるま	243	1	1	3	1.23	123,976	0.02
	名護	188	2	1	3	1.60	63,161	0.05
	宮古島	107		2	2	1.87	54,625	0.04
部	石垣	88		3	3	3.41	49,562	0.06
	計	3,128	1	9	57	2.14	1,139,577	0.06

居住地別飲酒絡み事故発生状況

区分 市町村別	全事故	市町村居住者の飲酒絡み事故				率	人口	1,000人 当たり率
		死亡	重傷	軽傷	計			
市	那覇	843	4	13	17	2.02	322,624	0.05
	豊見城	162		4	4	2.47	64,436	0.06
	糸満	155		4	4	2.58	61,811	0.06
	南城	130		2	2	1.54	43,945	0.05
	浦添	347		7	7	2.02	114,531	0.06
	宜野湾	283		6	6	2.12	98,689	0.06
	沖縄	430	1	7	9	2.09	142,217	0.06
	うるま	338		5	6	1.78	123,976	0.05
	名護	150	2	1	3	2.00	63,161	0.05
	宮古島	88		2	2	2.27	54,625	0.04
部	石垣	79		3	3	3.80	49,562	0.06
	計	3,005	1	8	63	2.10	1,139,577	0.06

町	久米島	3	1		1	33.33	7,873	0.13
	八重瀬	52	1		1	1.92	31,338	0.03
	南風原	141		4	4	2.84	39,348	0.10
	与那原	75		2	2	2.67	19,810	0.10
	西原	105	1	4	5	4.76	35,322	0.14
	北谷	148		3	3	2.03	29,097	0.10
	嘉手納	28					13,681	
	金武	43		1	1	2.33	11,573	0.09
	本部	22		1	1	4.55	13,234	0.08
	竹富						4,343	
部	与那国	1					1,716	
	計	618	3	15	18	2.91	207,335	0.09

町	久米島	5	1	1	2	40.00	7,873	0.25
	八重瀬	78	1	1	2	2.56	31,338	0.06
	南風原	105		3	3	2.86	39,348	0.08
	与那原	69	1		1	1.45	19,810	0.05
	西原	114	1	3	4	3.51	35,322	0.11
	北谷	105		1	1	0.95	29,097	0.03
	嘉手納	52		1	1	1.92	13,681	0.07
	金武	43		1	1	2.33	11,573	0.09
	本部	20		1	1	5.00	13,234	0.08
	竹富						4,343	
部	与那国	2					1,716	
	計	593	4	12	16	2.70	207,335	0.08

村	渡嘉敷						725	
	座間味						942	
	粟国						701	
	渡名喜						378	
	南大東						1,248	
	北大東						591	
	中城	55	1	1	2	3.64	21,284	0.09
	北中城	124		1	1	0.81	17,345	0.06
	読谷	67		3	3	4.48	41,446	0.07
	恩納	48	1		1	2.08	11,038	0.09
部	宜野座	10					6,071	
	国頭	9					4,746	
	大宜味	1					3,089	
	東	3					1,805	
	伊平屋						1,251	
	伊是名						1,430	
	今帰仁	11					9,411	
	伊江	1	1		1	100.00	4,593	0.22
	多良間						1,172	
	計	329	3	5	8	2.43	129,266	0.06

村	渡嘉敷	1					725	
	座間味	1					942	
	粟国						701	
	渡名喜						378	
	南大東						1,248	
	北大東						591	
	中城	56	1		1	1.79	21,284	0.05
	北中城	60		2	2	3.33	17,345	0.12
	読谷	108	1	8	9	8.33	41,446	0.22
	恩納	34		1	1	2.94	11,038	0.09
部	宜野座	17					6,071	
	国頭	11					4,746	
	大宜味	6					3,089	
	東	5					1,805	
	伊平屋						1,251	
	伊是名						1,430	
	今帰仁	18					9,411	
	伊江	3	1		1	33.33	4,593	0.22
	多良間	1					1,172	
	計	321	3	11	14	4.36	129,266	0.11

県合計	4,075	1	15	77	93	2.28	1,476,178	0.06
-----	-------	---	----	----	----	------	-----------	------

県外居住者等	156						-	
合計	4,075	1	15	77	93	2.28	1,476,178	0.06

※ 市町村域内で発生した飲酒絡み事故の内容別発生件数

(率)及び人口1,000人当たりの発生率である。

※ 人口は、平成31年1月1日の住民基本台帳による。

※ 交通事故当事者の居住地別による飲酒絡み事故の内容別発生件数

(率)及び人口1,000人当たりの発生率である。

※ 人口は、平成31年1月1日の住民基本台帳による。

居住地別飲酒運転検挙者数

市町村別	種別	酒酔い運転	酒気帯び運転		飲酒運転合計	市町村別人口	人口千人当 検 挙 件 数
			0.25未満	0.25以上			
市 部	那 覇 市	5	77	248	330	322,624	1.02
	豊 見 城 市		32	63	95	64,436	1.47
	糸 満 市	1	33	81	115	61,811	1.86
	南 城 市		12	38	50	43,945	1.14
	浦 添 市	1	38	102	141	114,531	1.23
	宜 野 湾 市	1	36	106	143	98,689	1.45
	沖 縄 市	1	35	128	164	142,217	1.15
	うるま市	5	40	126	171	123,976	1.38
	名 護 市		15	61	76	63,161	1.20
	宮 古 島 市	2	21	47	70	54,625	1.28
	石 垣 市	1	13	54	68	49,562	1.37
	計	17	352	1,054	1,423	1,139,577	1.25
町 部	久 米 島 町		10	21	31	7,873	3.94
	八 重 瀬 町		8	45	53	31,338	1.69
	南 風 原 町		6	31	37	39,348	0.94
	与 那 原 町		7	32	39	19,810	1.97
	西 原 町		14	30	44	35,322	1.25
	北 谷 町		6	21	27	29,097	0.93
	嘉 手 納 町		9	15	24	13,681	1.75
	金 武 町		7	15	22	11,573	1.90
	本 部 町	1	1		2	13,234	0.15
	竹 富 町			1	1	4,343	0.23
	与 那 国 町		2	7	9	1,716	5.24
	計	1	70	218	289	207,335	1.39
村 部	渡 嘉 敷 村					725	
	座 間 味 村					942	
	粟 国 村			1	1	701	1.43
	渡 名 喜 村					378	
	南 大 東 村					1,248	
	北 大 東 村					591	
	中 城 村	1	5	11	17	21,284	0.80
	北 中 城 村		9	23	32	17,345	1.84
	読 谷 村		18	47	65	41,446	1.57
	恩 納 村		9	15	24	11,038	2.17
	宜 野 座 村		2	5	7	6,071	1.15
	国 頭 村		1	3	4	4,746	0.84
	大 宜 味 村		2	5	7	3,089	2.27
	東 村			5	5	1,805	2.77
	伊 平 屋 村	1	2	10	13	1,251	10.39
	伊 是 名 村			3	3	1,430	2.10
	今 帰 仁 村			1	1	9,411	0.11
	伊 江 村		1	5	6	4,593	1.31
	多 良 間 村			1	1	1,172	0.85
	計	2	49	135	186	129,266	1.44
県内合計		20	471	1,407	1,898	1,476,178	1.29
その他		3	51	195	249	—	—
合計		23	522	1,602	2,147	1,476,178	1.45

※ 人口は、平成31年1月1日の住民基本台帳による。

4 飲酒絡み事故発生状況

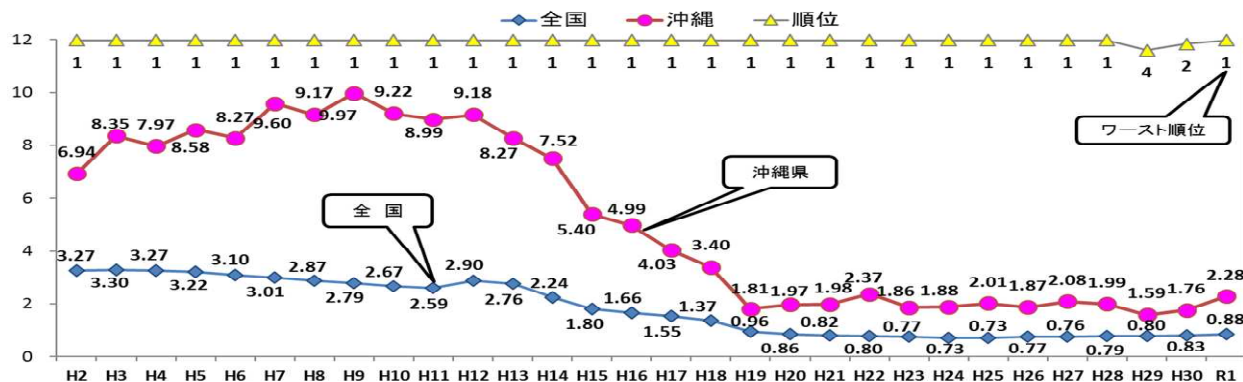
飲酒絡み事故件数

年 別	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	増減数	増減率	指数
飲酒絡み事故件数	154	126	126	134	117	117	109	82	78	93	15	19.2	60
死亡事故	8	5	7	10	9	11	13	5	2	1	-1	-50.0	13
死者数	8	5	7	10	9	11	13	6	2	1	-1	-50.0	13
負傷者数	203	172	160	168	157	156	140	105	115	128	13	11.3	63
うち重傷者	43	25	25	20	8	30	18	7	14	17	3	21.4	40
うち軽傷者	160	147	135	148	149	126	122	98	101	111	10	9.9	69

※ 飲酒絡み事故とは、自転車以上の車両を運転している運転者（第1当事者）が、飲酒運転により起こした交通事故件数。

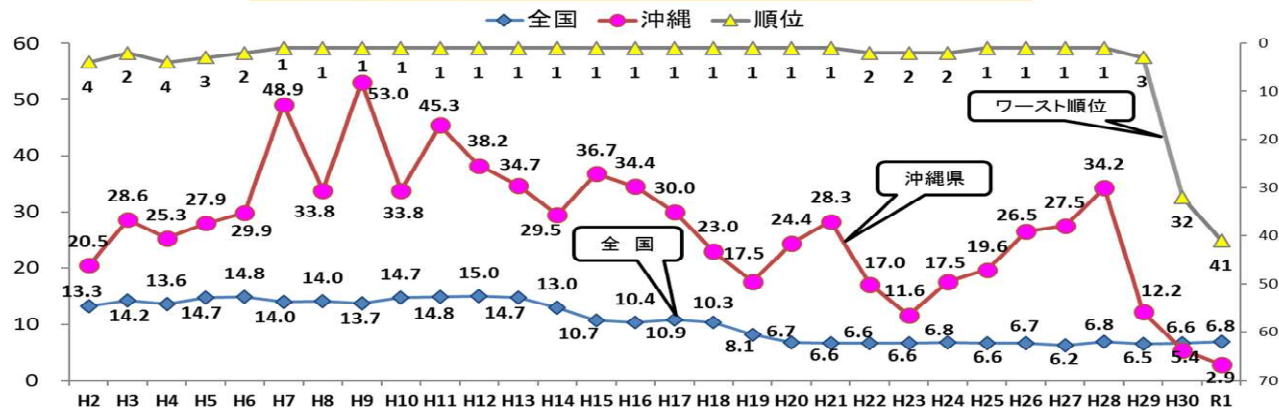
※ 死者数、負傷者数は、交通事故の運転者（第1当事者）の飲酒運転による交通事故で死傷した人数。

交通事故に占める飲酒絡み事故の構成率(%)の推移



令和元年中の交通事故に占める飲酒絡み事故の構成率は2.28%で、全国平均(0.88%)の約2.6倍という高い構成率で3年振りにワーストとなっています。

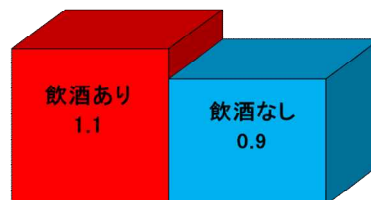
死亡事故に占める飲酒絡み事故の構成率(%)の推移



令和元年中の死亡事故に占める飲酒絡み事故の構成率は2.9%で、3年連続ワーストを脱却し、全国平均(6.6%)より3.9ポイント低い構成率となっています。

飲酒有無別の死亡事故率

	発生件数	死亡事故	死亡事故率
飲酒なし	3,919	34	0.9
飲酒あり	93	1	1.1



※ 飲酒有無別の交通事故件数には、ひき逃げ、飲酒調査不能等の63件は含まれない。

飲酒絡み事故の死亡事故率は1.1%で、飲酒なし事故(0.9%)に比べ高くなっています。

5 二輪車事故発生状況

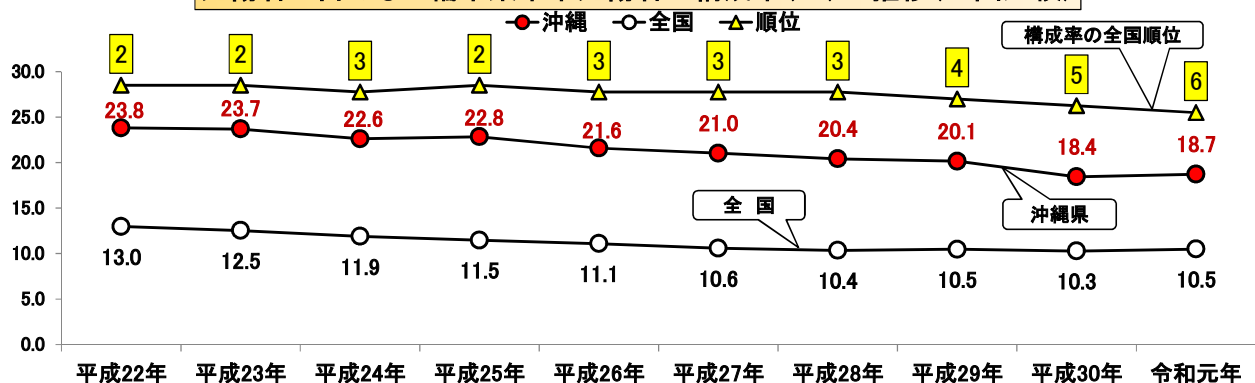
二輪車関連の事故件数

年 別	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	増減数	増減率	指数
二輪車関連事故発生件数	1,875	1,972	1,881	1,891	1,689	1,472	1,419	1,278	1,030	945	-85	-8.3	50
死者数	13	16	12	18	12	13	15	24	7	14	7	100.0	108
負傷者数	1,838	1,902	1,807	1,800	1,621	1,408	1,353	1,223	981	903	-78	-8.0	49
うち重傷者	369	346	333	304	283	292	272	268	211	173	-38	-18.0	47
うち軽傷者	1,469	1,556	1,474	1,496	1,338	1,116	1,081	955	770	730	-40	-5.2	50

※ 関連事故発生件数は、二輪車が第1当事者、第2当事者以下いずれの場合も関係した事故を含む。

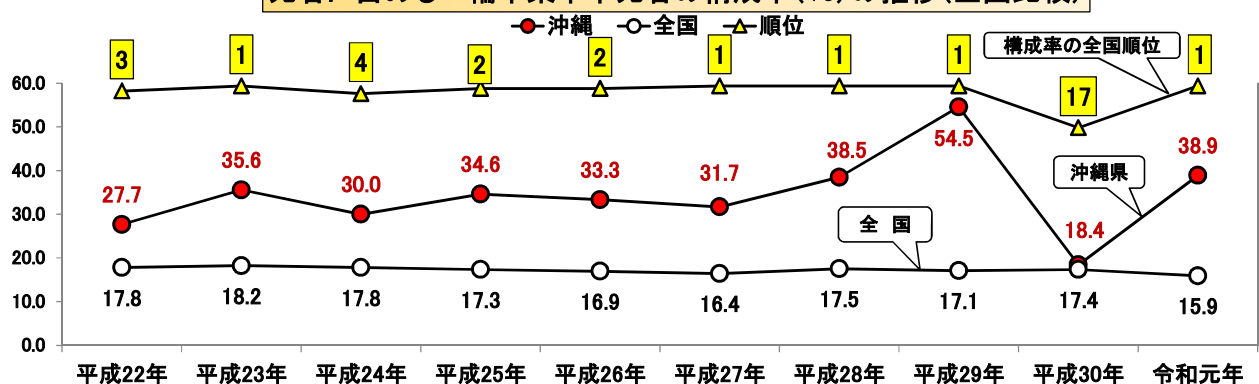
※ 死者数、負傷者数は、交通事故により二輪車乗車中の者(運転者、同乗者)が死傷した人数。

死傷者に占める二輪車乗車中死傷者の構成率(%)の推移(全国比較)



令和元年中の交通事故死傷者に占める二輪車乗車中の死傷者の構成率は18.7%で、全国平均(10.5%)の約1.8倍となっており、全国ワースト6となっています。

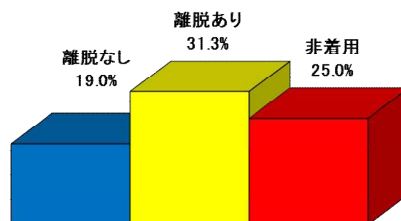
死者に占める二輪車乗車中死者の構成率(%)の推移(全国比較)



令和元年中の交通事故死者に占める二輪車乗車中の死者の構成率は38.9%で、全国平均(15.9%)より約2.5倍高く、全国ワースト1となっています。

ヘルメット着用状況別の死亡重傷率

	二輪車乗車中 死者数	死亡重傷者数	死亡重傷率
離脱なし	814	155	19.0
離脱あり	99	31	31.3
非着用	4	1	25.0



非着用の死亡重傷率(25.0%)と離脱ありの死亡重傷率(31.3%)は、離脱なし(19.0%)と比べ死亡重傷率が高くなっており、ヘルメットの非着用や不適切な着用が被害を大きくしています。

6 レンタカー事故発生状況

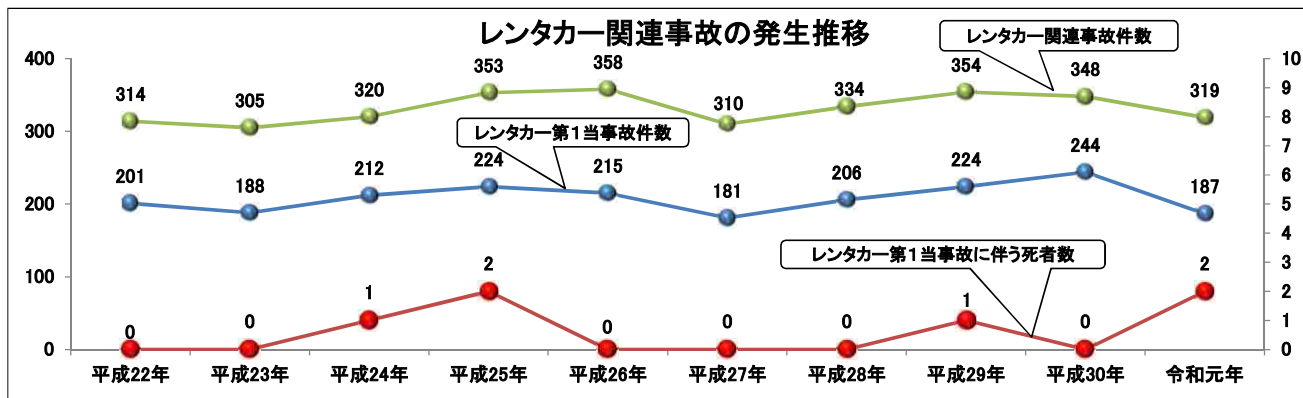
レンタカー(1・2当)関連事故件数

年 別	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	増減数	増減率	指数
レンタカー関連事故発生件数	314	305	320	353	358	310	334	354	348	319	-29	-8.3	102
レンタカー第1当事故	201	188	212	224	215	181	206	224	244	187	-57	-23.4	93
死者数			1	2				1		2	2		
負傷者数	286	282	301	335	309	241	290	280	339	273	-66	-19.5	95
うち重傷者	27	18	24	17	22	18	21	31	29	30	1	3.4	111
うち軽傷者	259	264	277	318	287	223	269	249	310	243	-67	-21.6	94

※ 関連事故発生件数は、レンタカーが第1当事者、第2当事者いずれの場合も関係した事故を含む。

※ レンタカー第1当事故は、レンタカーが第1当事者となった事故件数。

※ 死者数、重傷者数、軽傷者数は、レンタカーが第1当事者の交通事故に伴う死傷者数。



令和元年中のレンタカーが関係した事故は319件で、前年に比べ29件(8.3%)減少しました。

また、レンタカーが原因となった事故(第1当事故)は187件で、前年と比べ57件(23.4%)減少しましたが、事故に伴う死者は2人でした。

レンタカー(1・2当)関連事故の発生件数の多い市町村

	市町村	全事故	レンタカー 関連事故	構成率
1	那 覇 市	1,091	75	6.9
2	宮 古 島 市	107	28	26.2
2	名 護 市	188	28	14.9
4	浦 添 市	370	21	5.7
5	沖 縄 市	468	17	3.6
	全 体	4,075	319	7.8

レンタカー(1・2当)関連事故の構成率が多い市町村

	市町村	全事故	レンタカー 関連事故	構成率
1	大 宜 味 村	1	1	100.0
2	本 部 町	22	9	40.9
3	国 頭 村	9	3	33.3
3	恩 納 村	48	16	33.3
5	宮 古 島 市	107	28	26.2
6	金 武 町	43	9	20.9
7	今 帰 仁 村	11	2	18.2
8	石 垣 市	88	15	17.0
9	名 護 市	188	28	14.9
10	北 中 城 村	124	14	11.3
	全 体	4,075	319	7.8

レンタカーが関係した事故は、那覇市が75件で最も多く、次いで宮古島市と名護市28件となっています。

また、人身事故に占めるレンタカーが関係した事故の構成率が最も高いのは、大宜見村100%で、次いで本部町40.9%、国頭村と恩納村33.3%の順となっており、本島北部地域や離島においてレンタカー関連事故の構成率が高くなっています。

7 自転車事故発生状況

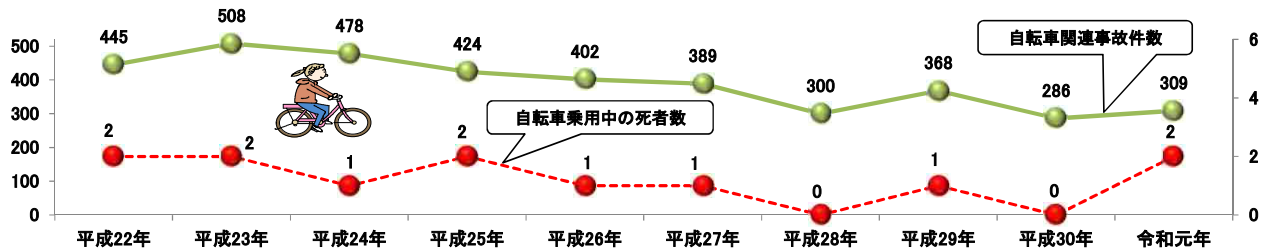
自転車関連の事故件数

年 別	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	増減数	増減率	指数
自転車関連事故発生件数	445	508	478	424	402	389	300	368	286	309	23	8.0	69
死者数	2	2	1	2	1	1		1		2	2		100
負傷者数	447	514	474	420	398	384	296	361	281	301	20	7.1	67
うち重傷者	60	62	51	56	45	55	34	43	53	51	-2	-3.8	85
うち軽傷者	387	452	423	364	353	329	262	318	228	250	22	9.6	65

※ 関連事故発生件数は、自転車が第1当事者、第2当事者以下いずれの場合も関係した事故を含む。

※ 死者数、負傷者数は、交通事故により自転車に乗車中の者が死傷した人数

自転車関連事故の発生推移



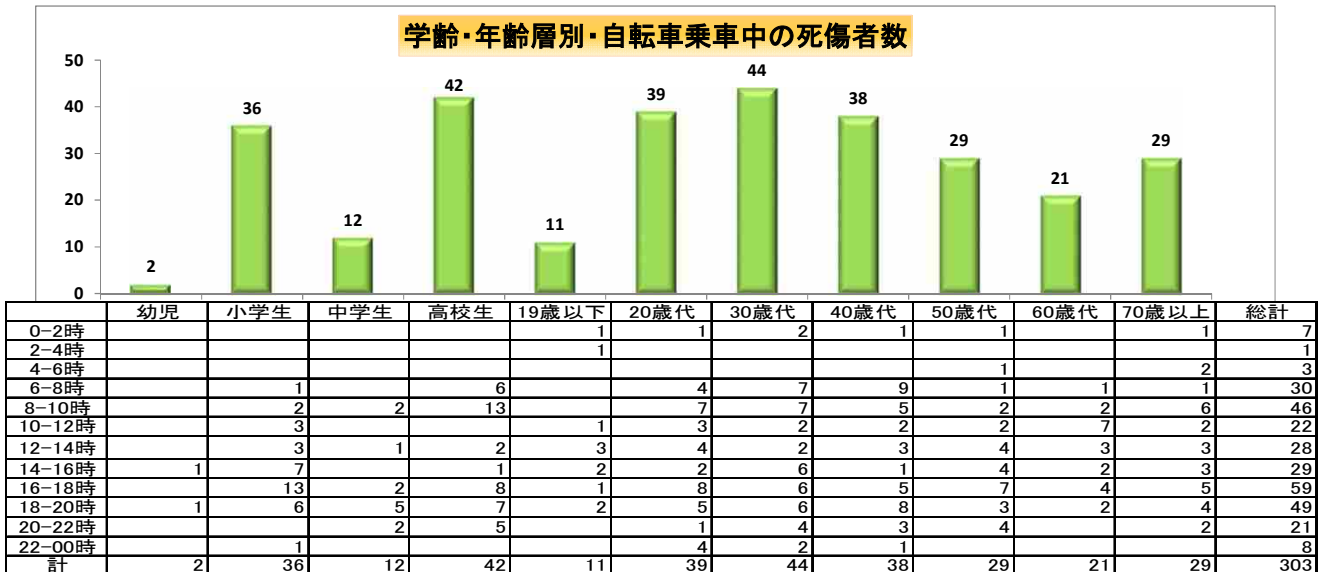
令和元年中の自転車が関係した事故は309件で、前年に比べ23件増加し、自転車乗車中の死者は2人でした。

事故類型別・自転車関連事故発生状況



令和元年中の自転車が関係した事故は、出会い頭事故が最も多く、次いで右左折時事故となっており、両方で自転車関連事故の8割以上(83.8%)を占めています。

学齢・年齢層別・自転車乗車中の死傷者数



学齢と年齢層別に死傷者数をみると、30歳代が最も多く、次いで高校生が多くなっています。

時間帯別は、全体で通勤、通学時間帯に死傷者数が多くなる傾向がありますが、小学生は放課後、又は帰宅中の時間帯(16時～18時)が最も多くなっています。

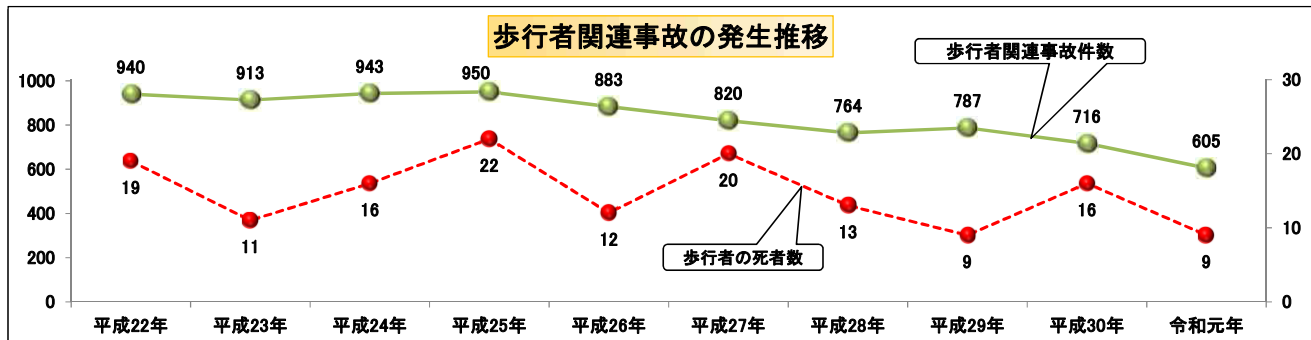
8 歩行者の事故発生状況

歩行者関連の事故件数

年 別	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	増減数	増減率	指数
歩行者関連事故発生件数	940	913	943	950	883	820	764	787	716	605	-111	-15.5	64
死者数	19	11	16	22	12	20	13	9	16	9	-7	-43.8	47
負傷者数	947	920	948	951	896	818	774	788	714	609	-105	-14.7	64
うち重傷者	205	212	206	222	183	152	187	198	180	155	-25	-13.9	76
うち軽傷者	742	708	742	729	713	666	587	590	534	454	-80	-15.0	61

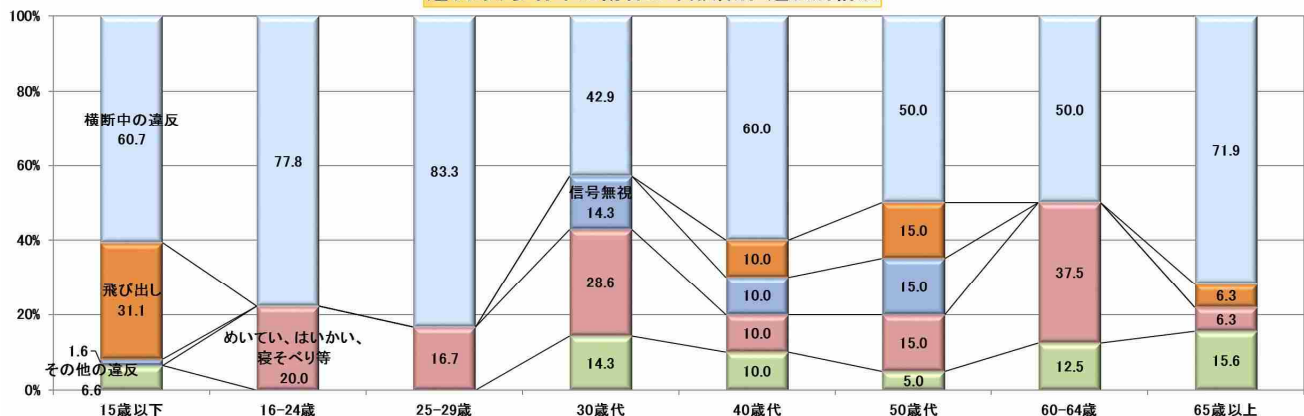
※ 関連事故発生件数は、歩行者が第1当事者、第2当事者以下いずれの場合も関係した事故を含む。

※ 死者数、負傷者数は、交通事故により死傷した歩行者の人数。



令和元年中の歩行者が関係した事故は605件で、前年に比べ111件(15.5%)減少し、死者は9人で、前年に比べ7人(43.8%)減少

違反あり歩行中死傷者の年齢層別・違反別構成



法令違反		15歳以下	16-24歳	25-29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60-64歳	65歳以上	総計
横断中の違反	横断歩道の横断	7	3	2	2	4	5		16	39
	斜め横断			1			1			2
	走行車両の直前直後の横断	25	4	1	2		3	1	6	42
	駐停車車両の直前直後の横断	5			2	2	1	3	1	14
	横断禁止場所の横断			1						1
計		37	7	5	6	6	10	4	23	98
飛び出し		19				1	3		2	25
信号無視		1			2	1	3			7
めいてい、はいかい、寝そべり等			2	1	4	1	3	3	2	16
その他の違反		4			2	1	1	1	5	14
違反あり合計		61	9	6	14	10	20	8	32	160
調査不能										
違反なし		72	29	26	49	70	37	25	150	458
総計		133	38	32	63	80	57	33	182	618

構成率	全死者に占める歩行中の死者			100.0	50.0	40.0	12.5	100.0	25.0	25.0
	全負傷者に占める歩行中の負傷者	37.0	5.2	6.4	6.5	8.7	9.2	14.6	30.2	12.5

違反が認められた歩行者を年齢層別で見ると、15歳以下が約4割で最も多く、次いで65歳以上となっています。また、違反別では横断中の違反が6割を占めています。

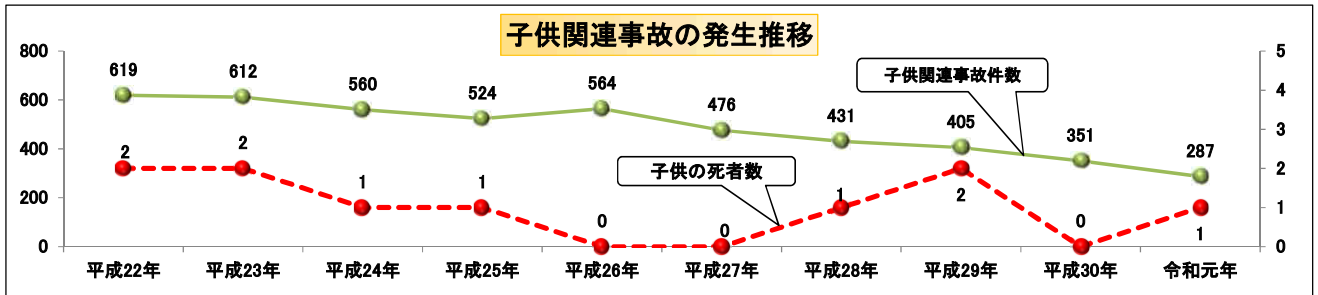
9 子供(中学生以下)の事故発生状況

子供関連の事故件数

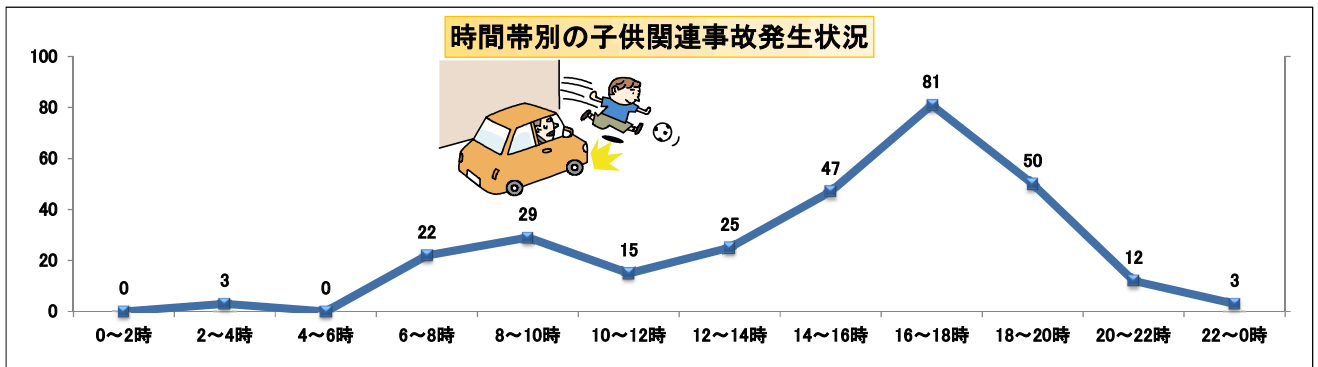
年 別	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	増減数	増減率	指数
子供関連事故発生件数	619	612	560	524	564	476	431	405	351	287	-64	-18.2	46
死者数	2	2	1	1			1	2		1	1		50
負傷者数	698	669	630	583	667	533	499	461	411	334	-77	-18.7	48
うち重傷者	59	60	50	50	42	46	38	49	35	27	-8	-22.9	46
うち軽傷者	639	609	580	533	625	487	461	412	376	307	-69	-18.4	48

※ 関連事故発生件数は、子供が第1当事者、第2当事者以下いずれの場合も関係した事故を含む。

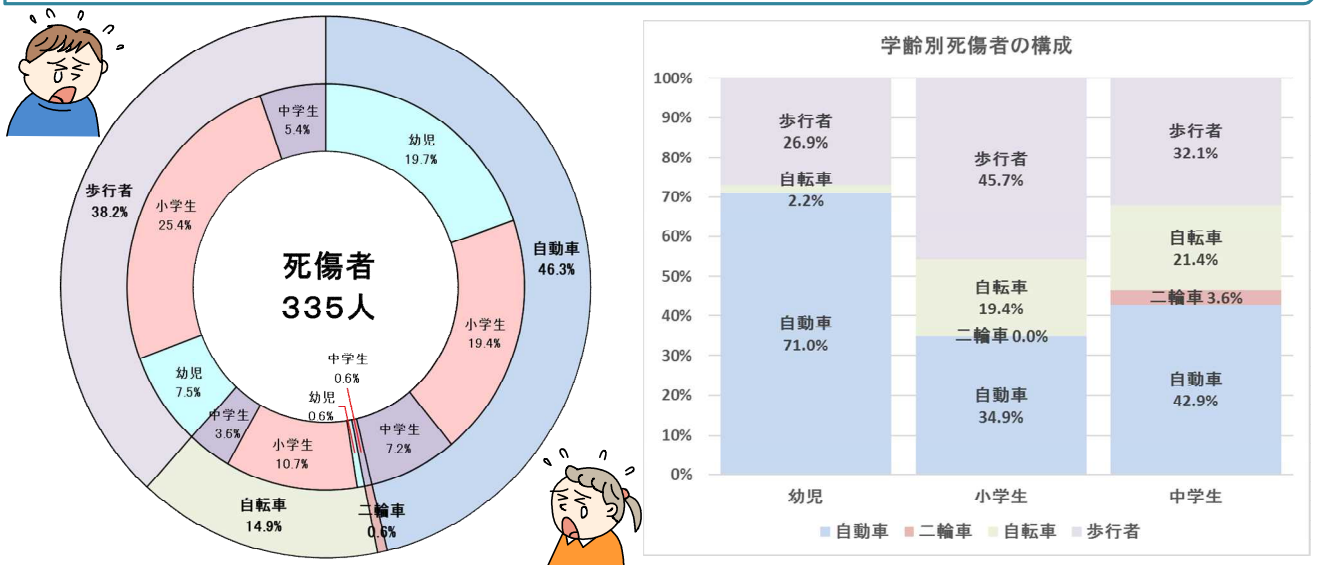
※ 死者数、負傷者数は、交通事故により死傷した子供の人数。



令和元年中の子供が関係した事故は287件で、前年に比べ64件減少し、子供の死者は1人でした。



時間帯別の子供が関係した事故は、下校後の16時～18時の時間帯に最も多く発生しています。



自動車乗車中の死傷者は46.3%で最も多く、次いで歩行者の死傷者が多くなっています。
幼児と中学生は、自動車乗車中が最も多く、小学生は、歩行中が最も多くなっています。

10 高校生の事故発生状況

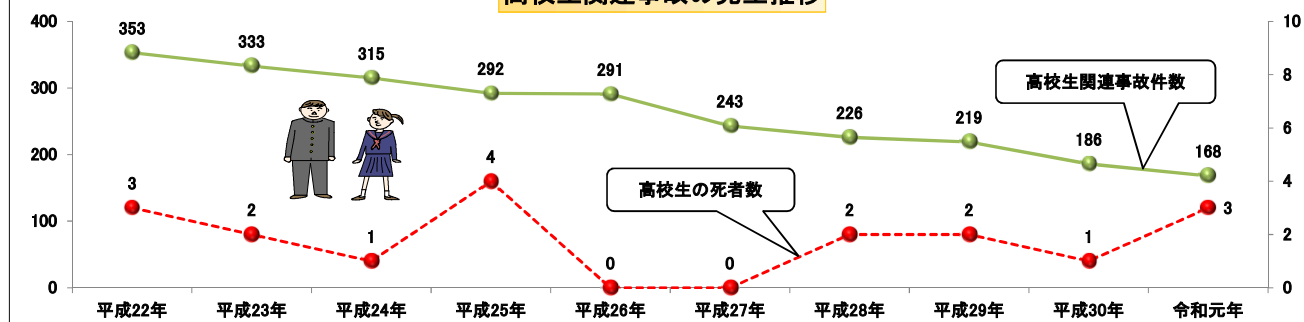
高校生関連の事故件数

年 別	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	増減数	増減率	指数
高校生関連事故発生件数	353	333	315	292	291	243	226	219	186	168	-18	-9.7	48
死者数	3	2	1	4			2	2	1	3	2	200.0	100
負傷者数	322	315	298	270	265	236	200	191	195	147	-48	-24.6	46
うち重傷者	48	55	41	35	34	39	27	18	21	14	-7	-33.3	29
うち軽傷者	274	260	257	235	231	197	173	173	174	133	-41	-23.6	49

※ 関連事故発生件数は、高校生が第1当事者、第2当事者以下のいずれの場合も関係した事故を含む。

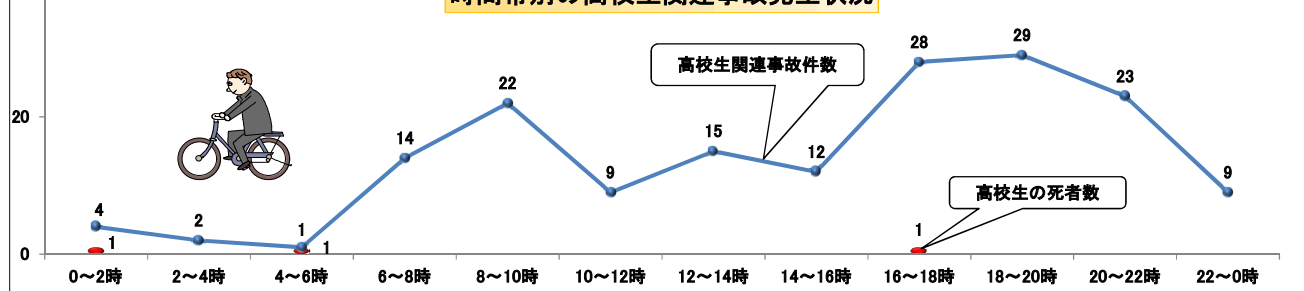
※ 死者数、負傷者数は、交通事故により死傷した高校生の人数。

高校生関連事故の発生推移



令和元年中の高校生が関係した事故は168件で、前年に比べ18件(9.7%)減少しましたが、高校生の死者は3人でした。

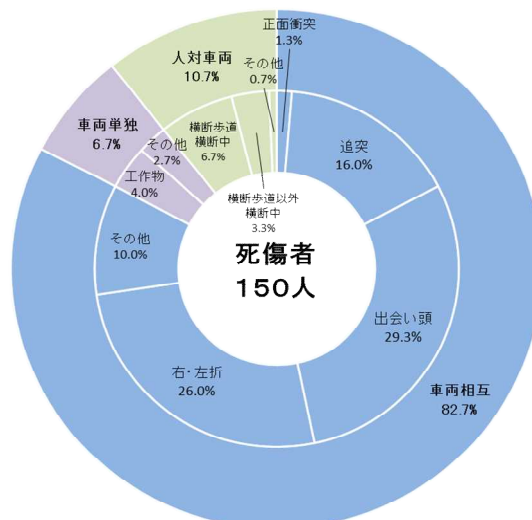
時間帯別の高校生関連事故発生状況



時間帯別の高校生が関係した事故は、薄暮期の18時～20時までの時間帯に最も多く発生し、次いで下校時間帯の16時～18時と20時～22時の時間帯に多く発生しています。

高校生の事故類型別・状態別死傷者数

事故類型	自動車	二輪車	自転車	歩行者	総計
正面衝突		1	1		2
追突	20	3	1		24
出会い頭	5	19	20		44
追越追抜時	1	3			4
すれ違い時		1			1
左折時		4	7		11
右折時	2	16	10		28
車両相互 その他	1	7	2		10
計	29	54	41		124
工作物	2	4			6
駐車車両(運転者不在)					
転倒		1	1		2
その他		2			2
計	2	7	1		10
横断歩道横断中				10	10
横断歩道以外横断中		2		3	5
人対車両 その他				1	1
計		2		14	16
総 計	31	63	42	14	150



事故類型別・状態別死傷者では、自動車乗車中の追突と自転車乗車中の出会い頭事故が最も多く、次いで二輪車乗車中の出合頭となっています。

11 若年者(16歳～24歳)の事故発生状況

若年者関連の事故件数

年 別	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	増減数	増減率	指数
若年者関連事故発生件数	2,343	2,402	2,388	2,333	2,131	1,847	1,804	1,630	1,389	1,285	-104	-7.5	55
死者数	11	14	5	9	4	5	10	10	6	6			55
負傷者数	1,513	1,538	1,524	1,429	1,297	1,095	1,081	990	845	734	-111	-13.1	49
うち重傷者	176	150	165	142	108	116	118	98	90	74	-16	-17.8	42
うち軽傷者	1,337	1,388	1,359	1,287	1,189	979	963	892	755	660	-95	-12.6	49

※ 関連事故発生件数は、若年者が第1当事者、第2当事者以下いずれの場合も関係した事故を含む。

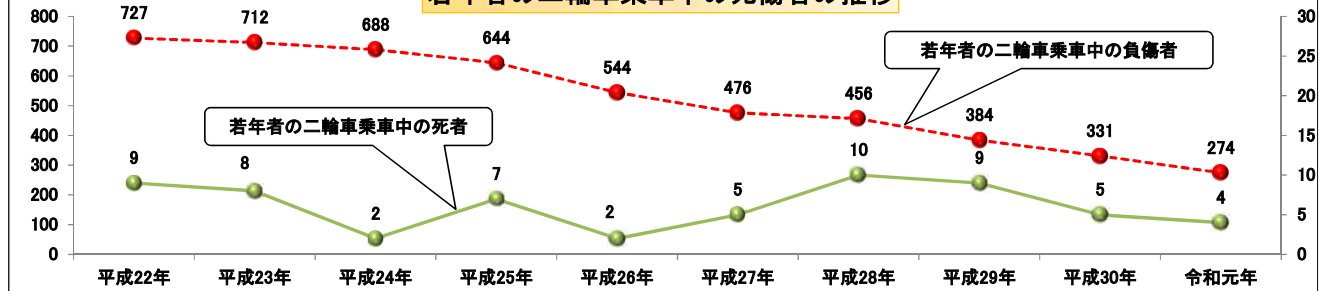
※ 死者数、負傷者数は、交通事故により死傷した若年者の人数。

若年者関連事故の発生推移



令和元年中の若年者の負傷者は734人で、前年に比べ111人(13.1%)減少しましたが、若年者の死者は6人(前年同数)でした。

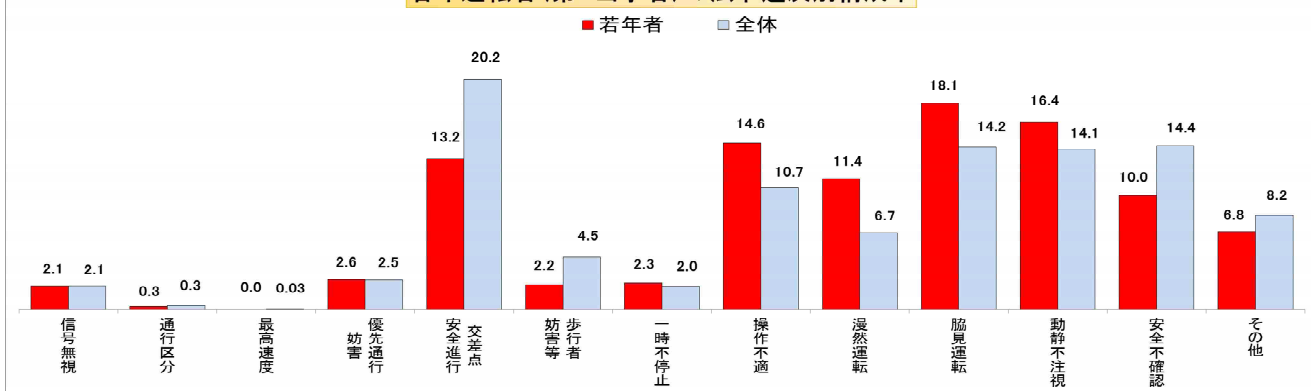
若年者の二輪車乗車中の死傷者の推移



令和元年中の若年者の二輪車乗車中の負傷者は274人で、前年と比べ57人減少しました。

また、二輪車乗車中の死者は4人で、前年に比べ1人減少しましたが、若年者の死者(6人)の6割以上を二輪車乗車中が占めており、過去の推移をみても、二輪車乗車中に死者の割合が高くなっています。

若年運転者(第1当事者)の法令違反別構成率



※ 若年運転者(第1当事者)は、若年者が原付以上(自転車を含まない)の車両を運転して第1当事者になったもの。

令和元年中の若年運転者(第1当事者)の法令違反は、全体(全年齢)と比べ操作不適、漫然運転、脇見運転、動静不注視の違反による事故の比率が高くなっています。

12 高齢者(65歳以上)の事故発生状況

高齢者関連の事故件数

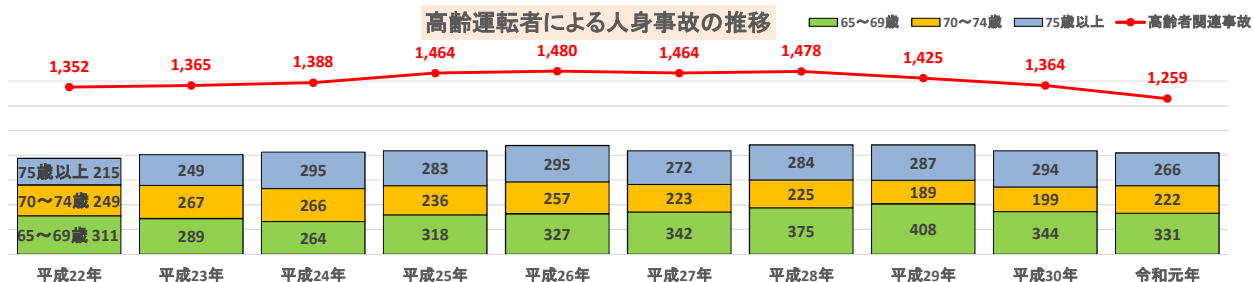
年 別	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	増減数	増減率	指数
高齢者関連事故発生件数	1,352	1,365	1,388	1,464	1,480	1,464	1,478	1,425	1,364	1,259	-105	-7.7	93
死者数	19	11	11	12	9	15	13	11	20	12	-8	-40.0	63
負傷者数	754	751	751	828	804	764	734	728	679	593	-86	-12.7	79
うち重傷者	182	168	145	159	162	134	157	166	164	135	-29	-17.7	74
うち軽傷者	572	583	606	669	642	630	577	562	515	458	-57	-11.1	80
高齢運転者事故	775	805	825	837	879	837	884	884	837	819	-18	-2.2	106

※ 関連事故発生件数は、高齢者(65歳以上)が第1当事者、第2当事者以下いずれの場合も関係した事故を含む。

※ 死者数、負傷者数は、交通事故により死傷した高齢者の人数。

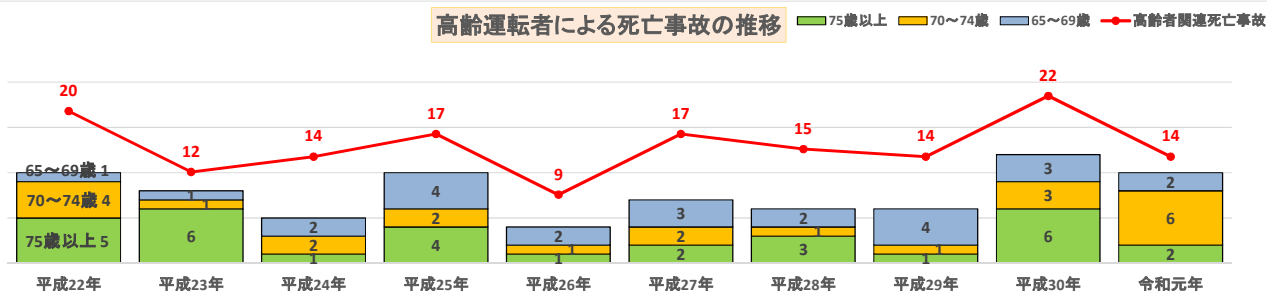
※ 高齢運転者事故は、高齢者(65歳以上)が原付以上(自転車を含まない)の車両を運転して第1当事者となった事故件数。

高齢運転者による人身事故の推移



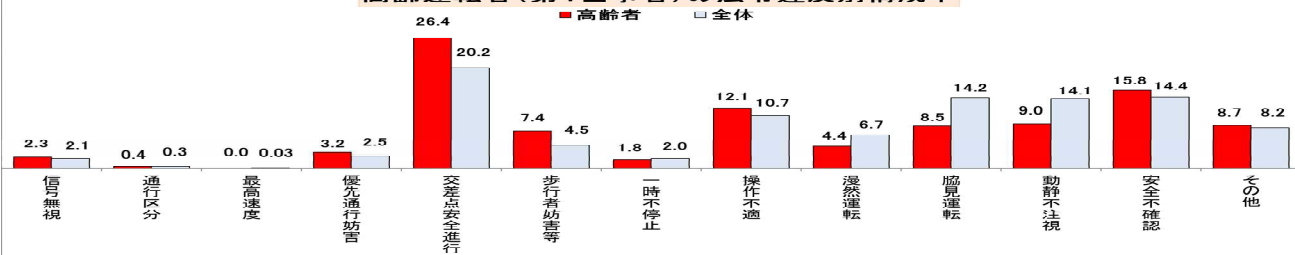
高齢者関連事故は過去10年で最少となっていますが、高齢運転者事故は増減を繰り返しながら僅かに減少している。

高齢運転者による死亡事故の推移



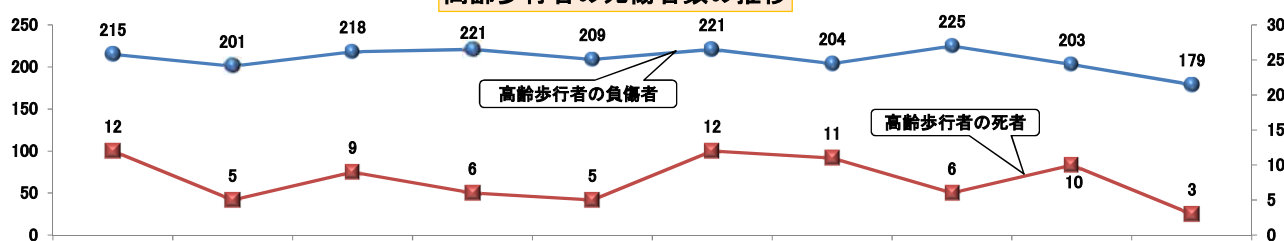
令和元年中の高齢者関連の死亡事故は14件で、うち高齢者運転者事故(10件)は71.4%を占めています。

高齢運転者(第1当事者)の法令違反別構成率



高齢運転者は、全体(全年齢)と比べ、特に交差点安全進行義務違反、歩行者妨害等、操作不適の割合が高くなっています。

高齢歩行者の死傷者数の推移



令和元年中の高齢歩行者の負傷者は179人で2年連続減少し、死者は3人で前年に比べ7人の減少となりました。

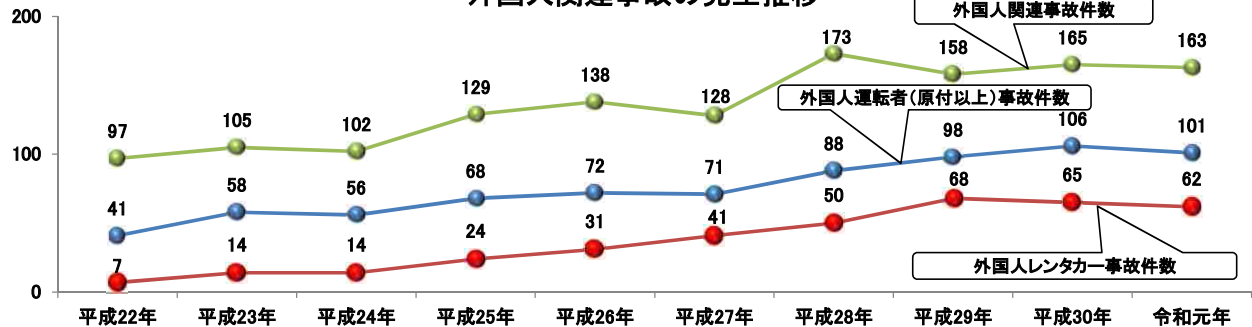
13 外国人関連事故発生状況

外国人事故関連事故件数

年 別	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	増減数	増減率	指数
外国人関連事故発生件数	97	105	102	129	138	128	173	158	165	163	-2	-1.2	168
外国人運転者事故件数	41	58	56	68	72	71	88	98	106	101	-5	-4.7	246
死者数										1	1		
負傷者数	56	71	71	98	104	81	118	121	159	143	-16	-10.1	255
うち重傷者	2	11	7	7	8	7	8	15	16	18	2	12.5	900
うち軽傷者	54	60	64	91	96	74	110	106	143	125	-18	-12.6	231
外国人レンタカー事故件数	7	14	14	24	31	41	50	68	65	62	-3	-4.6	886

※ 関連事故は、外国人(米軍構成員除く)が第1当、第2当以下いずれの当事者となった場合を含む人身事故件数
 ※ 外国人運転者事故は、外国人(米軍構成員除く)が原付以上(自転車含まない)の車両を運転して第1当事者となった人身事故件数
 ※ 死者数、負傷者数は、外国人運転者事故に伴い死傷した人数
 ※ 外国人レンタカー事故は、外国人(米軍構成員を除く)がレンタカーを運転して第1当となった人身事故件数

外国人関連事故の発生推移



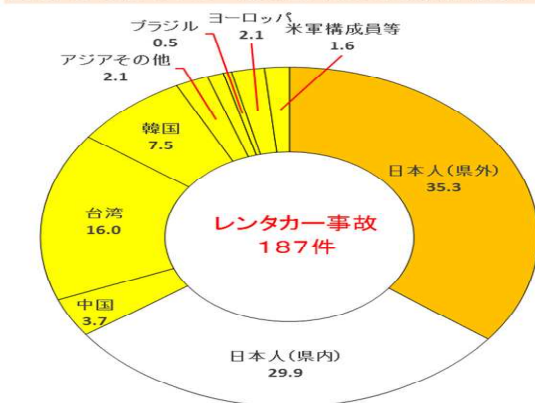
令和元年中の外国人が関連した事故は163件で、前年に比べ2件(1.2%)減少しました。
 また、外国人運転者事故は101件で、前年と比べ5件(4.7%)減少、レンタカーを運転した外国人が原因となった事故は62件で前年と比べ3件(4.6%)減少しました。

事故類型別・外国人運転者事故の構成(H22～R1)



外国人運転者事故は、追突事故の構成が29.4%で最も高く、次いで右折時が22.3%、出会い頭が20.9%の順などとなっています。

国籍・地域別レンタカー(第1当)事故の構成(令和元年中)



	日本人(県外)	日本人(県内)	中国	台湾	韓国	アジアその他	アメリカ	ブラジル	ヨーロッパ	米軍構成員等	合計
平成30年	117	61	12	31	17	2	1		2	1	244
令和元年	66	56	7	30	14	4	2	1	4	3	187
増減数	-51	-5	-5	-1	-3	2	1	1	2	2	-57
増減率	-43.6	-8.2	-41.7	-3.2	-17.6	100.0	100.0		100.0	200.0	-23.4

レンタカー事故に占める外国人運転手(米軍構成員等を除く)は、33.2%となっています。
 国籍・地域別にみると台湾(16.0%)と韓国(7.5%)が多くなっています。

14 路上横臥事故発生状況

路上横臥事故関連事故件数

年 別	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	増減数	増減率	指数
路上横臥事故	-	-	26	17	18	22	17	15	16	16	0	0.0	62
死亡事故	-	-	2	2	1	4	1	3	3	3	0	0.0	150
重傷事故	-	-	10	6	5	9	10	6	3	5	2	66.7	50
軽傷事故	-	-	14	9	12	9	6	6	10	8	-2	-20.0	57

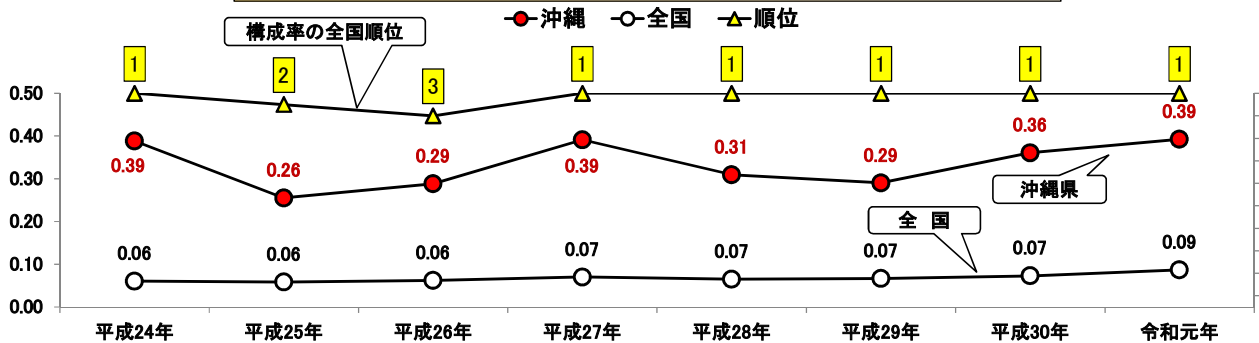
※ 路上横臥事故は、道路上に泥酔、居眠り等で横たわっていた時(座り込んでいる場合も含む。)に発生した事故件数。

※ 死亡事故、重傷事故、軽傷事故は路上横臥事故の件数。

※ 路上横臥事故の統計は、平成24年から集計しているため、平成23年以前の統計はない。

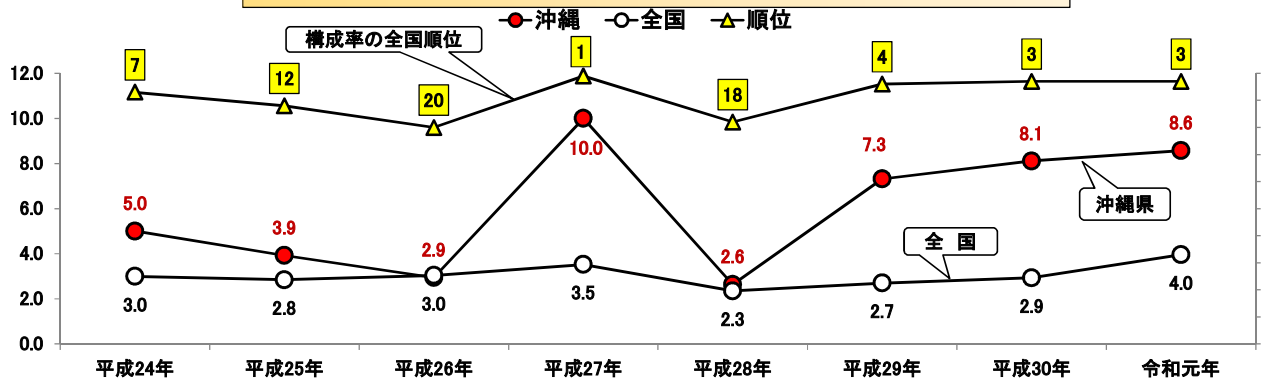
※ 指数は、平成24年を100とした場合の令和元年の値をいう。

人身事故に占める路上横臥事故の構成率(%)の推移(全国比較)



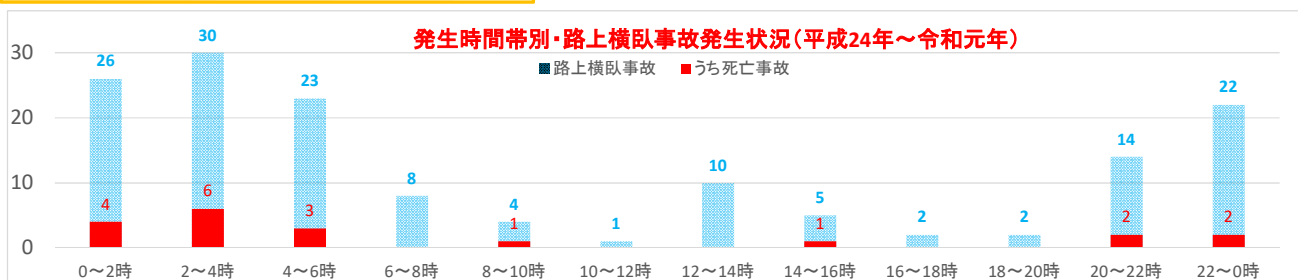
令和元年中の人身事故に占める路上横臥事故の構成率は0.39%で、全国平均(0.09%)の約4.3倍となっており、全国ワースト1となっています。

死亡事故に占める路上横臥事故の構成率(%)の推移(全国比較)



令和元年中の死亡事故に占める路上横臥事故の構成率は8.6%で、全国平均(4.0%)より約2.2倍となっており、全国ワースト3となっています。

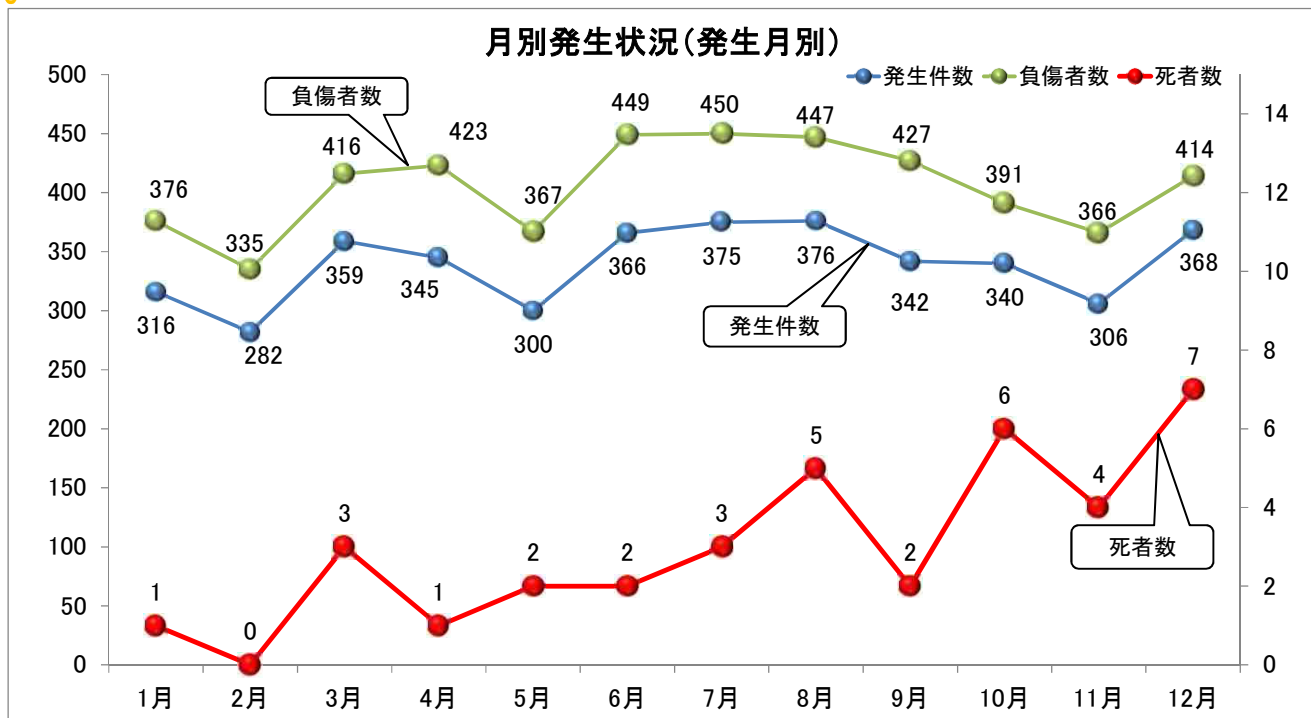
発生時間帯別・路上横臥事故発生状況



路上横臥事故は、深夜22時～6時の間に多く、死亡事故は2時～4時に最も多く発生しています。

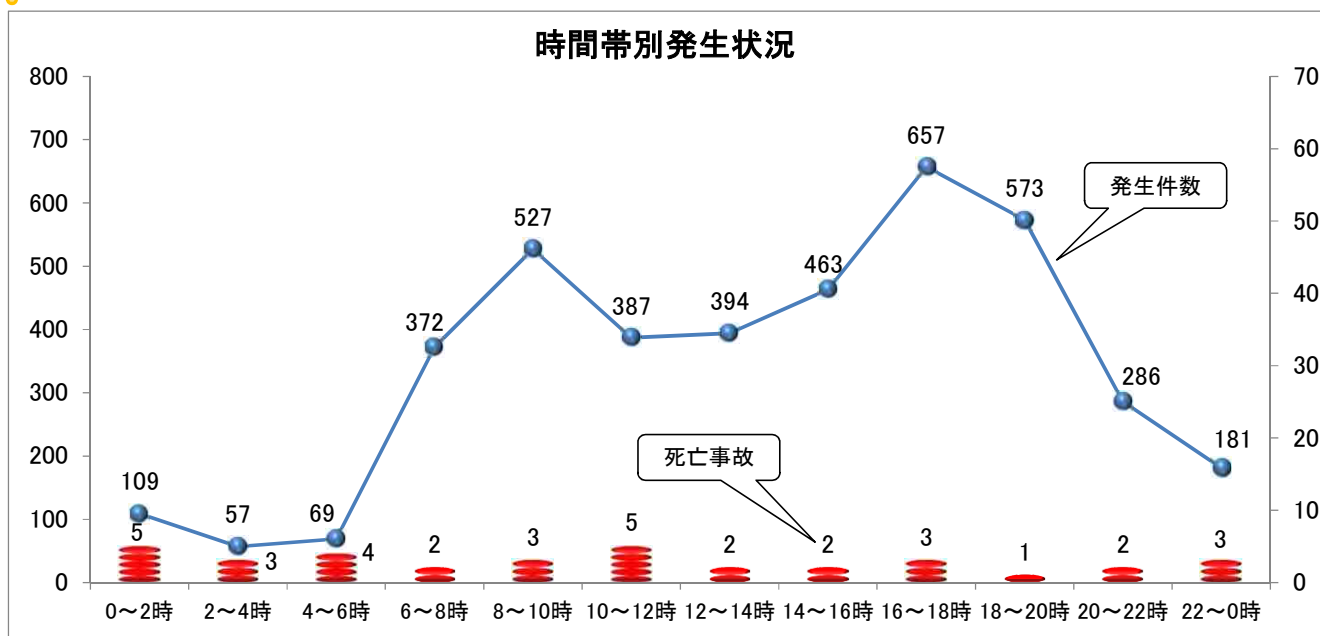
第2 令和元年中の交通事故発生状況

15 月別発生状況



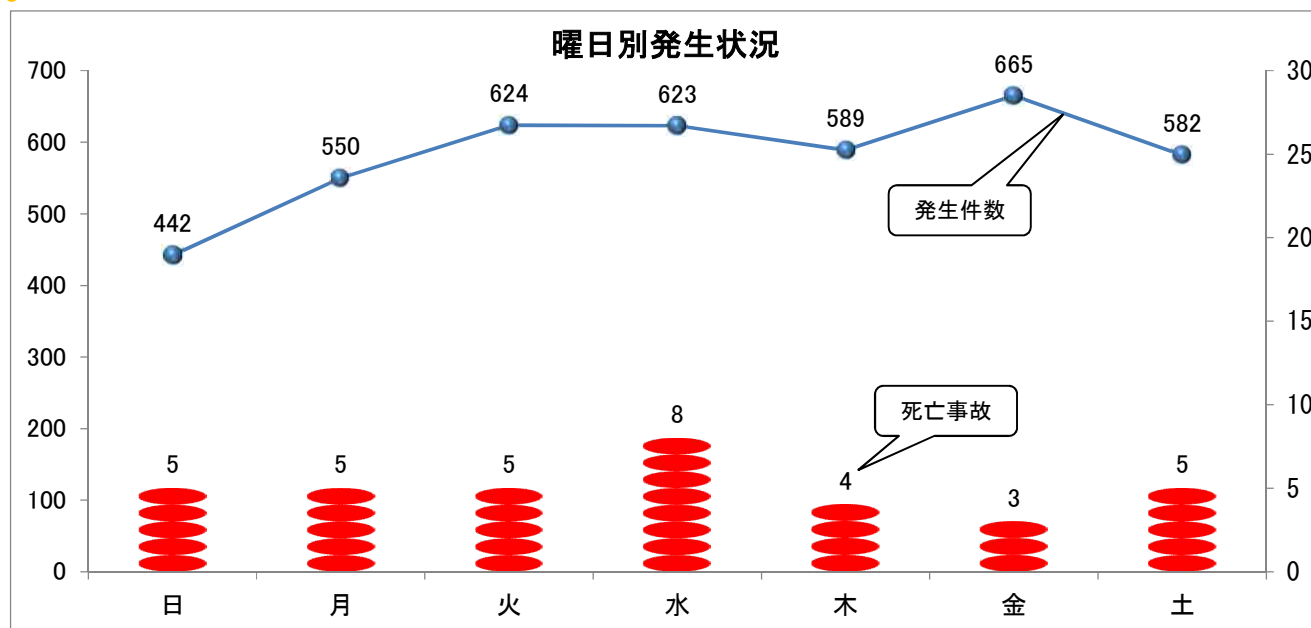
発生件数は、1ヶ月平均約340件で、8月(376件)が最も多く、2月(282件)が最も少なくなっています。
死者数は、12月が7人で最も多く、2月の死者はありませんでした。

16 時間帯別発生状況



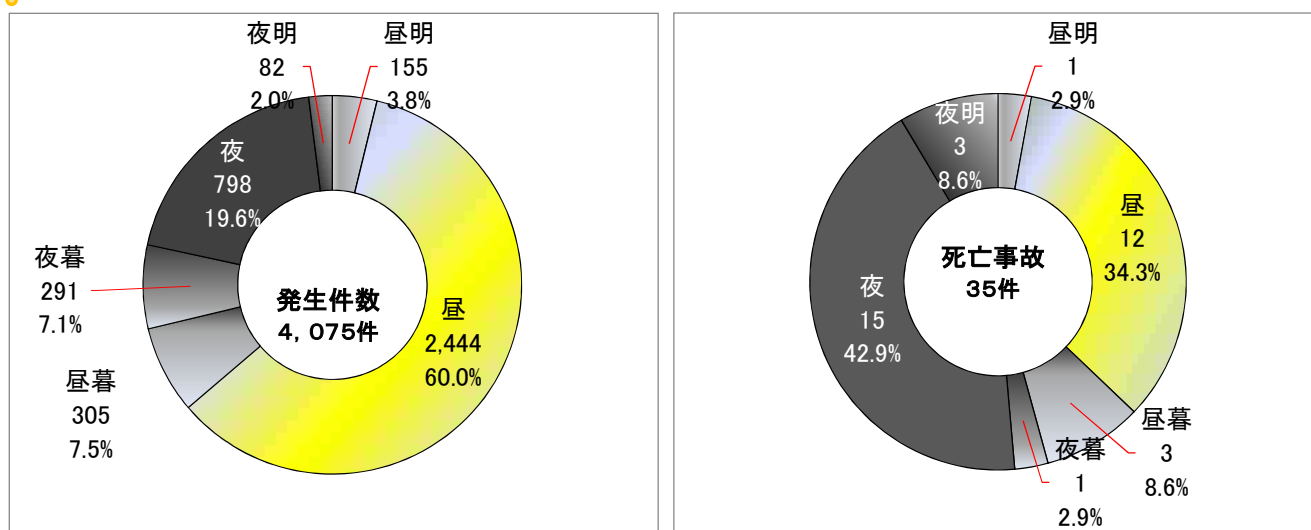
発生件数は、登校・出勤時間帯(8時~10時)と下校・帰宅時間帯(16時~20時)の発生が多くなっています。
死亡事故は0時~2時、10時~12時の時間帯に最も多くなっています。

17 曜日別発生状況

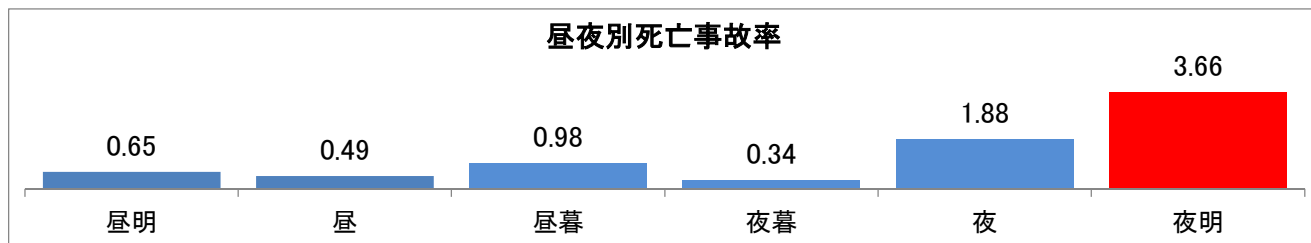


発生件数は、金曜日(665件)が最も多く、日曜日(442件)が最も少なくなっています。
死亡事故は、水曜日(8件)で最も多く、金曜日(3件)で最も少なくなっています。

18 昼夜別発生状況

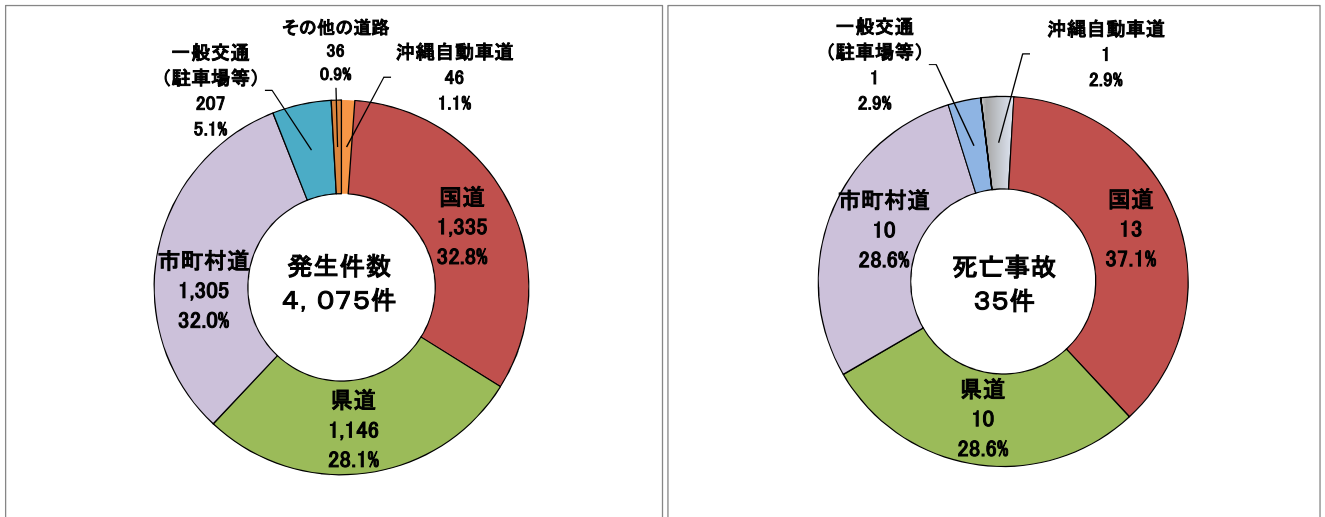


昼夜別死亡事故率



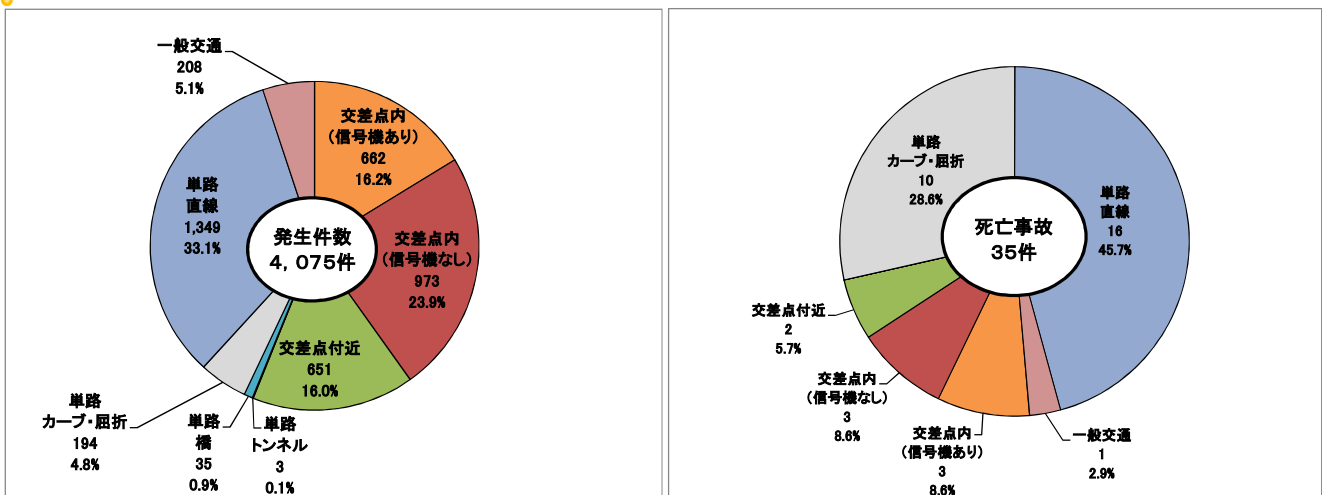
発生件数は、昼(2,444件)が最も多く、薄暮等時間帯(昼明、昼暮)を含む昼間の事故は、71.3%を占めています。
死亡事故は、夜(15件)が最も多く、薄暮時間帯(夜暮、夜明)を含む夜間の死亡事故は、54.3%を占めています。
死亡事故率は、夜明(3.66%)が最も高く、次いで夜(1.88%)となっています。

19 路線別発生状況

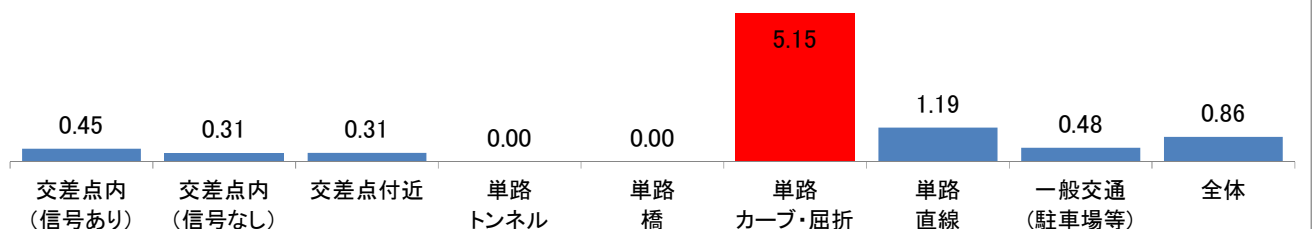


発生件数は、国道(1,335件)が最も多く、次いで市町村道(1,305件)となっています。
死亡事故は、国道(13件)が最も多くなっています。

20 道路形状別発生状況



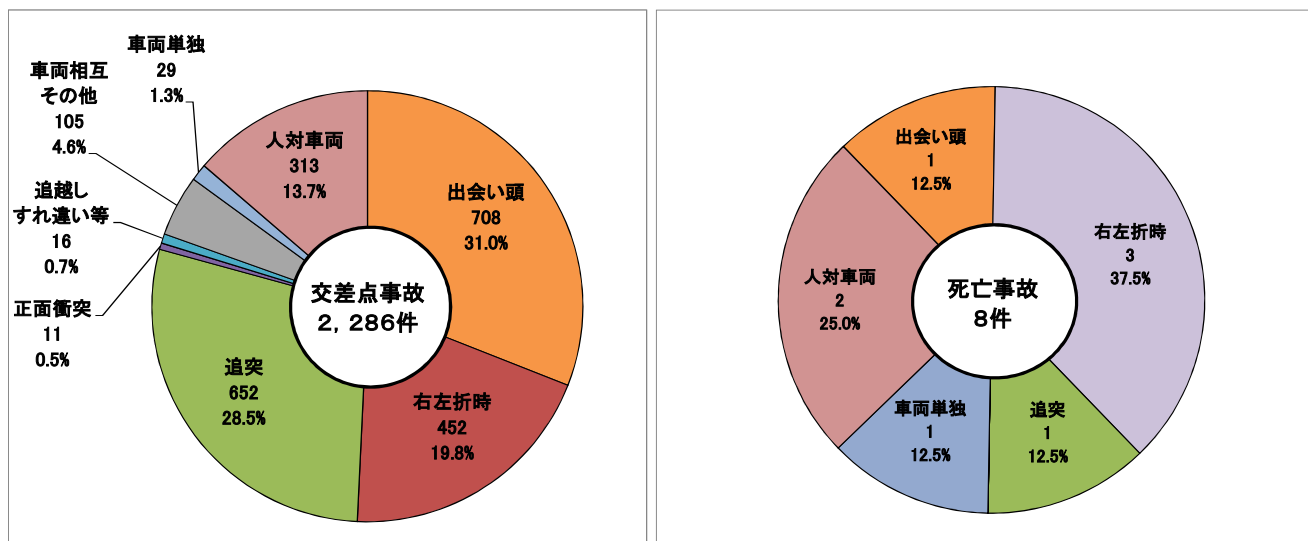
道路形状別死亡事故率



発生件数は、単路直線(1,349件)が最も多く、次いで信号機のない交差点内(973件)、信号機のある交差点内(662件)となっています。
死亡事故は、単路直線(16件)が最も多く、全体の45.7%を占めています。
死亡事故率は、単路のカーブ・屈折(5.15%)が最も高くなっています。

21 交差点事故発生状況

交差点(付近を含む)事故の事故類型別発生状況



交差点事故(交差点付近を含む)は、出会い頭(708件)が最も多く、次いで追突(652件)、右左折時(452件)の順となっており、これらで約8割(79.3%)を占めています。

交差点事故の発生件数が多い市町村

市町村名	発生件数	事故類型の内訳										
		交差点事故	構成率	出会い頭	右左折時	追突	正面衝突	追越しすれ違い時	車両相互	車両単独	人対車両	
1 那覇市	1,091	617	56.6	156	139	147	2	8	37	9	119	
2 沖縄市	468	293	62.6	100	51	90	3	1	10	2	36	
3 浦添市	370	193	52.2	60	39	48	1	3	7	4	31	
4 宜野湾市	288	174	60.4	40	43	49			8	4	30	
5 うるま市	243	133	54.7	48	18	40	1	1	5	4	16	
6 名護市	188	88	46.8	33	16	30	1		6		2	
7 北谷町	148	86	58.1	22	24	29			2		9	
8 南風原町	141	83	58.9	20	9	36	1	1	7	1	8	
9 北中城村	124	70	56.5	11	18	32		1	4		4	
10 宮古島市	107	68	63.6	35	9	12			5		7	
全体	4,075	2,286	56.1	708	452	652	11	16	105	29	313	

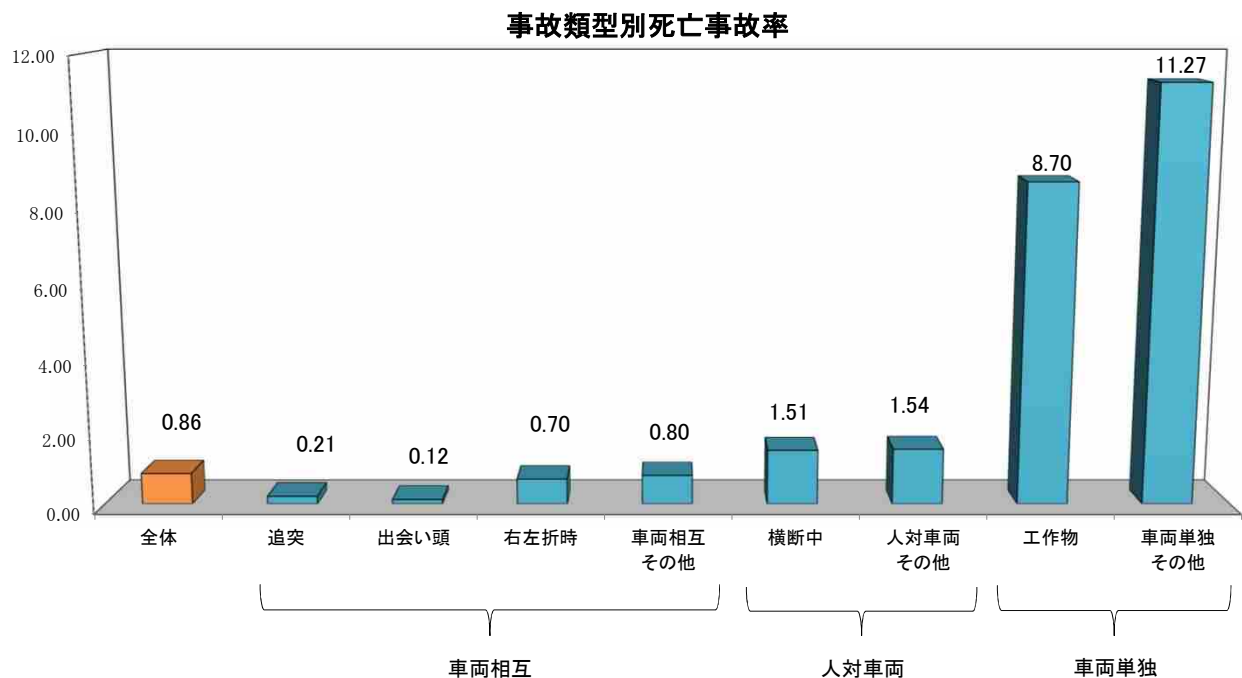
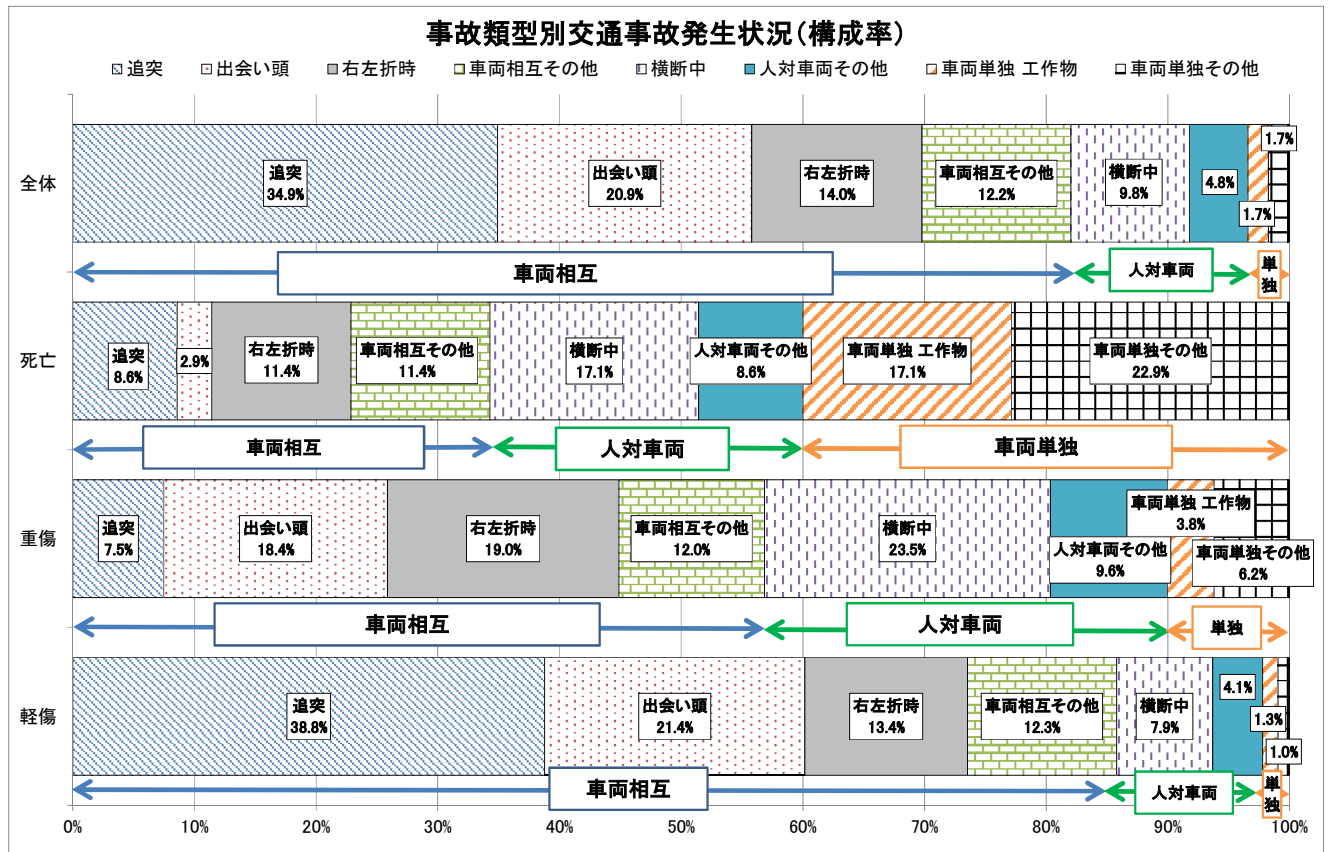
22 事故多発交差点

事故多発交差点(人身事故)

	多発交差点	管轄警察署	市区町村	主路線	発生件数	事故類型別発生件数								
						横断歩道横断中	横断中その他	人対車両その他	出会い頭	追突	右折直進	右折時その他	左折時	車両相互その他
1	安謝交差点	那覇署	那覇市	国道58号	12	2			1	2	2	3	1	1
2	古島インター	那覇署	那覇市	県道62号線	11				1	6	4			
3	瑞慶覧交差点	沖縄署	北中城村	国道330号	9					2	7			
3	明治橋交差点	那覇署	那覇市	国道58号	9	1				4	3		1	
4	旭橋交差点	那覇署	那覇市	国道58号	7	1	1		1	2		1	1	
4	松山交差点	那覇署	那覇市	国道58号	7	1		1		3	1			1
4	北前(南)交差点	沖縄署	北谷町	国道58号	7				1	4	2			

令和元年中の交差点事故は、安謝交差点が12件で最も多く、次いで古島インターが11件の順となっています。

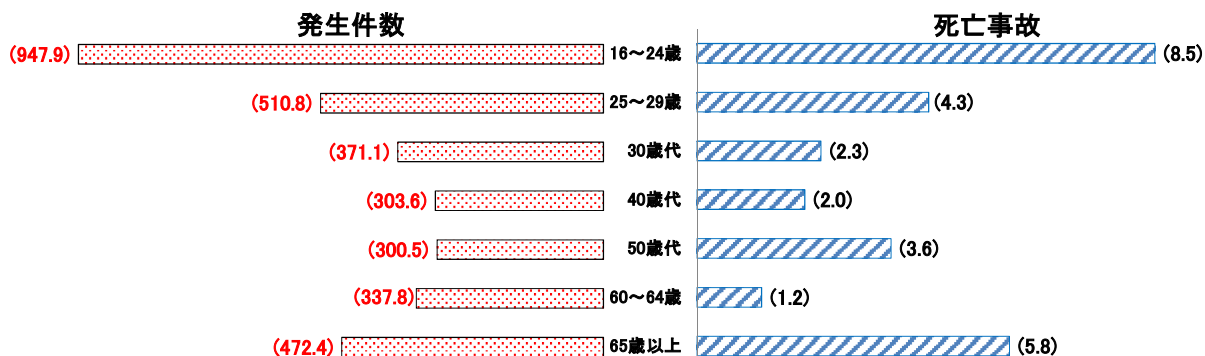
23 事故類型別発生状況



- 事故類型別の交通事故発生状況は、追突事故、出会い頭事故、右左折時が多く、全体の約7割(69.8%)を占めています。
- 死亡事故は、車両単独が40.0%、車両相互が34.3%、人対車両が25.7%となっています。
- 交通事故に占める死亡事故率は、車両単独その他が11.27%と最も高く、全体(0.86%)の約13倍となっています。

24 年齢層別発生状況

原付以上運転者(第1当事者)の年齢層別運転免許保有者10万人当たり交通事故件数



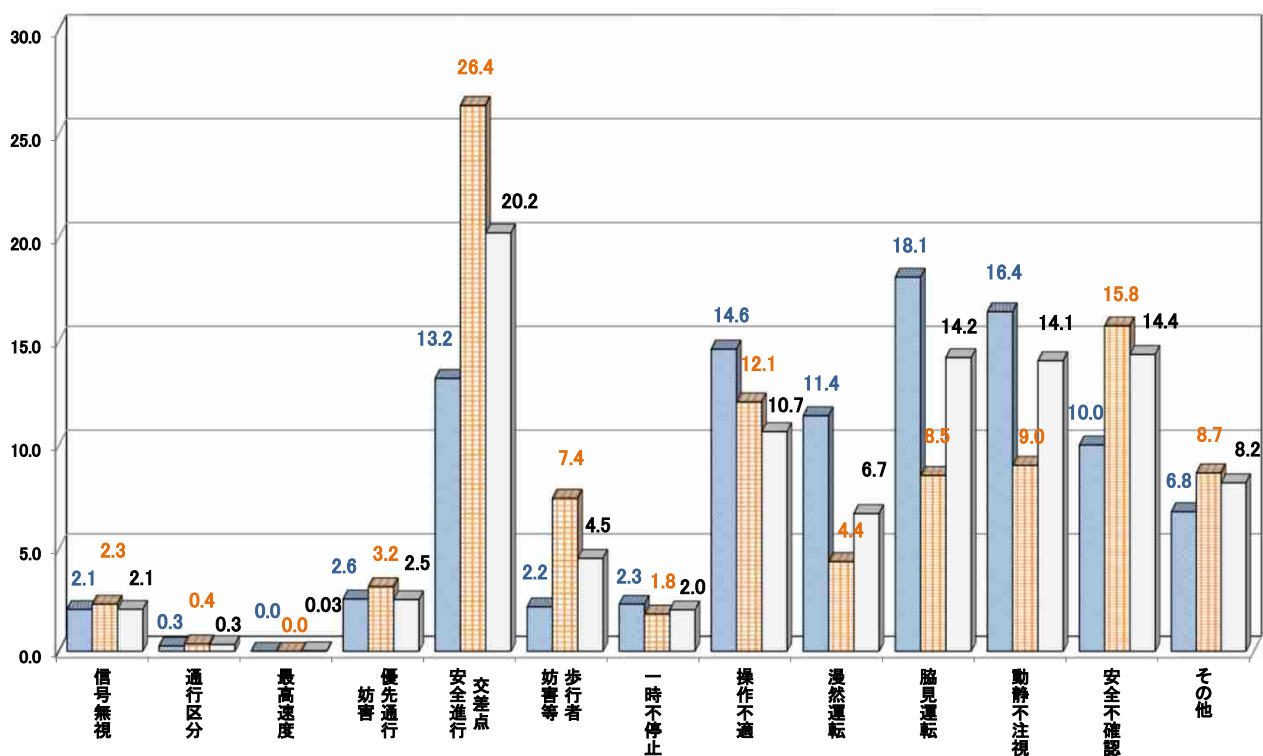
※ 上記の年齢層別の運転免許保有者数は、平成30年12月末の資料による。

- 発生件数は、若年者(16～24歳)(947.9件)が最も多く、次いで25～29歳(510.8件)となっています。
- 死亡事故は、若年者(8.5件)が最も多く、次いで65歳以上(5.8件)となっています。
- ※ 運転免許保有者10万人当たりでは、発生件数、死亡事故いずれも若年者の運転による事故が多くなっています。

25 法令違反別・年齢層別発生状況

原付以上運転者(第1当事者)の法令違反別・年齢層別交通事故の構成率

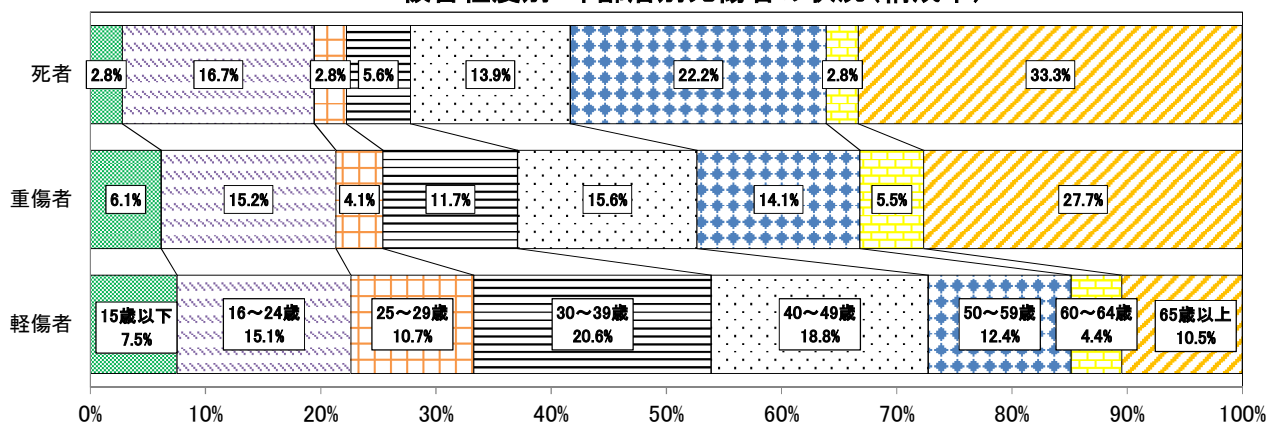
■ 若年者 ■ 高齢者 □ 全体



- 交通事故全体の法令違反は、交差点安全進行義務違反(20.2%)の割合が最も高く、次いで安全不確認(14.4%)の割合が高くなっています。
- 若年者(16～24歳)は、脇見運転(18.1%)、動静不注視(16.4%)の割合が高くなっています。
- 高齢者は、交差点安全進行義務違反(26.4%)、安全不確認(15.8%)等の割合が高くなっています。

26 年齢層別死傷者の状況

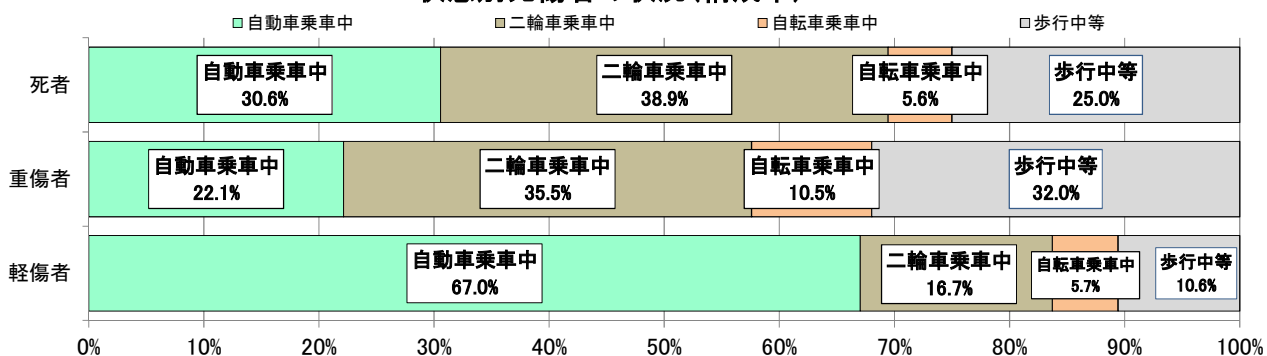
被害程度別・年齢層別死傷者の状況(構成率)



被害程度別の構成率が最も高い年齢層は、死者及び重傷者は、高齢者(65歳以上)(死者 33.3%・重傷者 27.7%)で、軽傷者は30~39歳(20.6%)となっています。

27 状態別死傷者の状況

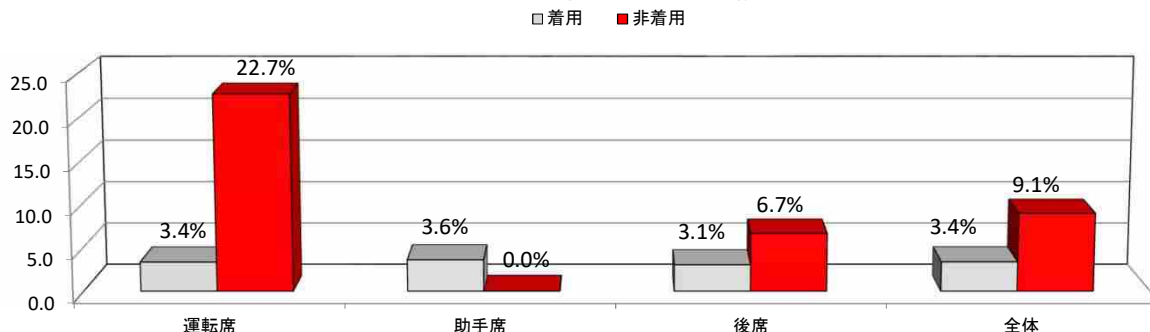
状態別死傷者の状況(構成率)



死傷者の状態別状況は、死者は二輪車乗車中(38.9%)の割合が最も高く、重傷者は二輪車乗車中(35.5%)、軽傷者は自動車乗車中(67.0%)が高くなっています。

28 シートベルト着用状況

座席別シートベルト着用有無別死亡重傷率



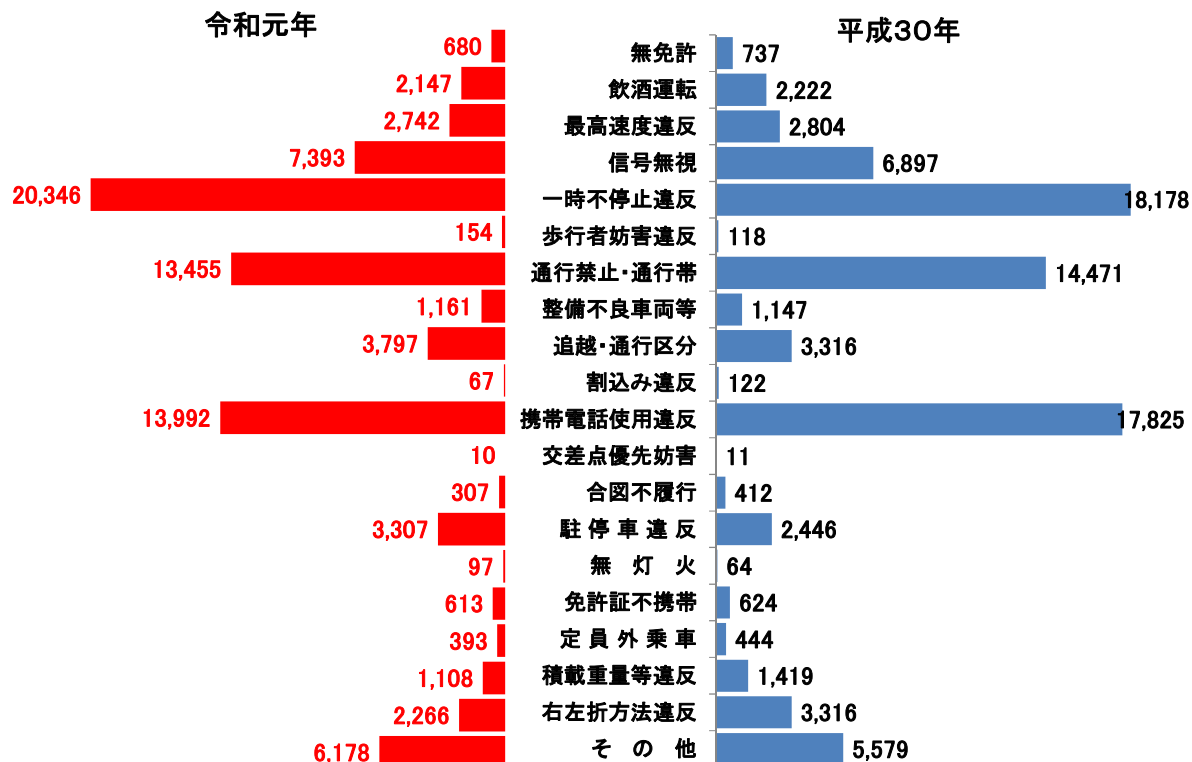
シートベルト(チャイルドシートを含む。)着用有無別死亡重傷率は、着用者3.4%に対して、非着用の死亡重傷率が2.7倍の9.1%となっています。

座席位置別の死亡重傷事故率は、運転席の非着用が22.7%と高く、着用者の6.7倍となっています。

第3 交通指導取締状況

29 交通違反検挙状況

令和元年中の道路交通法違反等の検挙件数は、80,564件で前年比2,049件(2.5%)減少しました。
重大事故に直結する悪質・危険・迷惑性の高い飲酒運転を含む交通三悪(飲酒運転、無免許運転、最高速度違反)の検挙は5,569件で前年比194件(3.4%)減少しました。



道路交通法違反等取締り状況

違反別			令和元年		平成30年		増減数	増減率
			検挙(告知)	構成率	検挙(告知)	構成率		
			件数		件数			
道 路 交 通 法 違 反	交通三悪	無免許	680	0.8	737	0.9	-57	-7.7
		飲酒運転	2,147	2.7	2,222	2.7	-75	-3.4
		最高速度違反	2,742	3.4	2,804	3.4	-62	-2.2
	交通三悪計		5,569	6.9	5,763	7.0	-194	-3.4
	交差点違反	信号無視	7,393	9.2	6,897	8.3	496	7.2
		一時不停止違反	20,346	25.3	18,178	22.0	2,168	11.9
		歩行者妨害違反	154	0.2	118	0.1	36	30.5
	交差点違反計		27,893	34.6	25,193	30.5	2,700	10.7
	通行禁止・通行帯	通行禁止・通行帯	13,455	16.7	14,471	17.5	-1,016	-7.0
		整備不良車両等	1,161	1.4	1,147	1.4	14	1.2
		追越・通行区分	3,797	4.7	3,316	4.0	481	14.5
	割込み違反	割込み違反	67	0.1	122	0.1	-55	-45.1
		携帯電話使用違反	13,992	17.4	17,825	21.6	-3,833	-21.5
		交差点優先妨害	10	0.0	11	0.0	-1	-9.1
	合図不履行	合図不履行	307	0.4	412	0.5	-105	-25.5
		駐停車違反	3,307	4.1	2,446	3.0	861	35.2
		無灯火	97	0.1	64	0.1	33	51.6
	免許証不携帯	免許証不携帯	613	0.8	624	0.8	-11	-1.8
		定員外乗車	393	0.5	444	0.5	-51	-11.5
		積載重量等違反	1,108	1.4	1,419	1.7	-311	-21.9
	右左折方法違反	右左折方法違反	2,266	2.8	3,316	4.0	-1,050	-31.7
		その他	6,178	7.7	5,579	6.8	599	10.7
		合計	80,213	99.6	82,152	99.4	-1,939	-2.4
	その他交通関係法令違反		351	0.4	461	0.6	-110	-23.9
	総合計		80,564	100.0	82,613	100.0	-2,049	-2.5

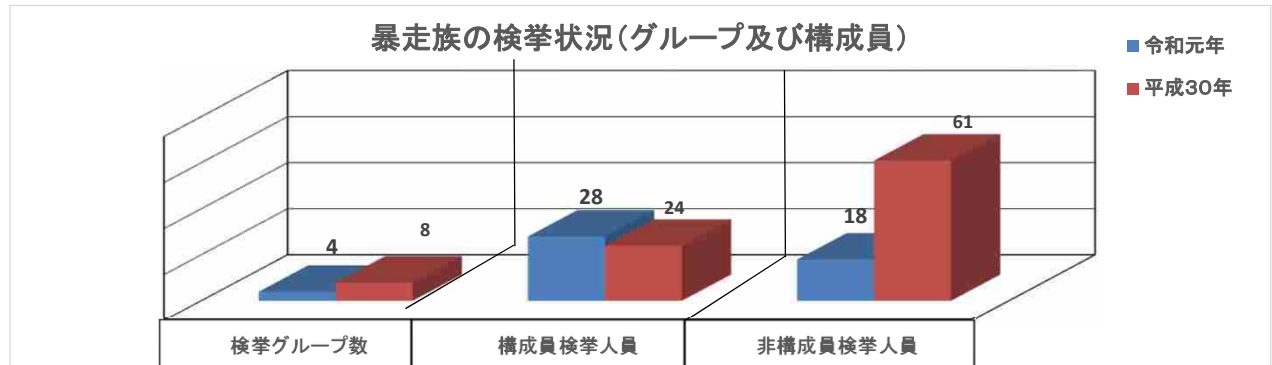
注1 その他交通関係法令違反とは、「道路運送法、道路運送車両法、保管場所法、道路法」の違反である。

注2 その他交通関係法令違反には、教唆、幫助、不申告も含む。

注3 駐停車違反に放置駐車確認標章貼付件数は含まない。

30 暴走族等検挙状況

令和元年中の暴走族の検挙状況は、4グループ、46人（構成員28人、非構成員18人）を検挙しています。
 年齢別では、18歳が15人（32.6%）と最も多くなっています。
 職業別では、建築関係が20人（43.5%）で最も多く、次いで高校生及びその他の職業が9人（19.6%）の順となっています。



年齢別検挙状況（非構成員含む）

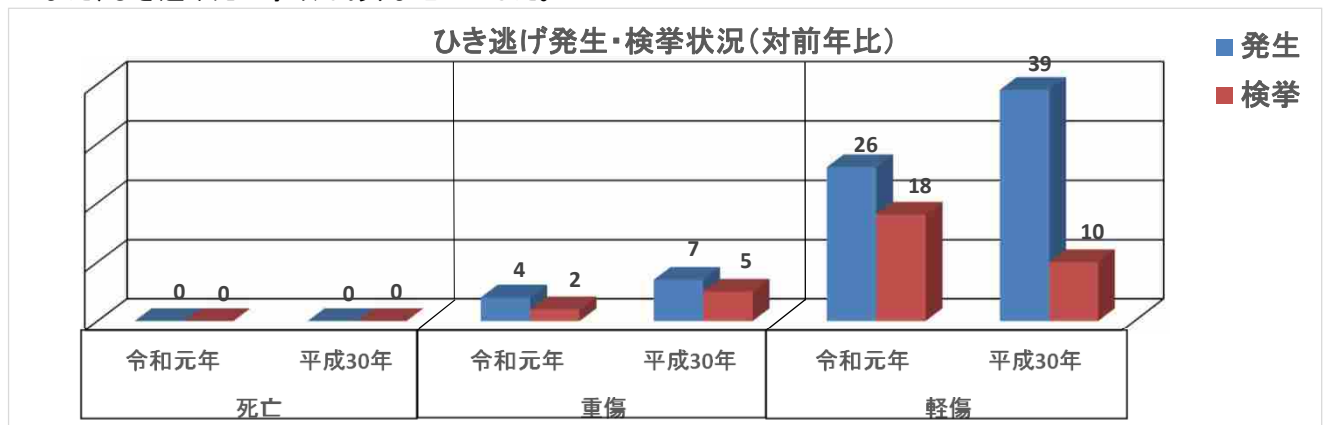
区 分	15歳以下	16 歳	17 歳	18 歳	19 歳	20歳以上	合 計
令和元年	6	4	13	15	6	2	46
構 成 比	13.0%	8.7%	28.3%	32.6%	13.0%	4.3%	100%
平成30年	10	14	30	9	4	18	85
構 成 比	11.8%	16.5%	35.3%	10.6%	4.7%	21.2%	100%

職業別検挙状況（非構成員含む）

区 分	中 学 生	高 校 生	その他の学生	建築関係	その他の職業	無 職	合 計
令和元年	2	9	1	20	9	5	46
構 成 比	4.3%	19.6%	2.2%	43.5%	19.6%	10.9%	100%
平成30年	8	11	1	35	21	9	85
構 成 比	9.4%	12.9%	1.2%	41.2%	24.7%	10.6%	100%

31 ひき逃げ発生検挙状況

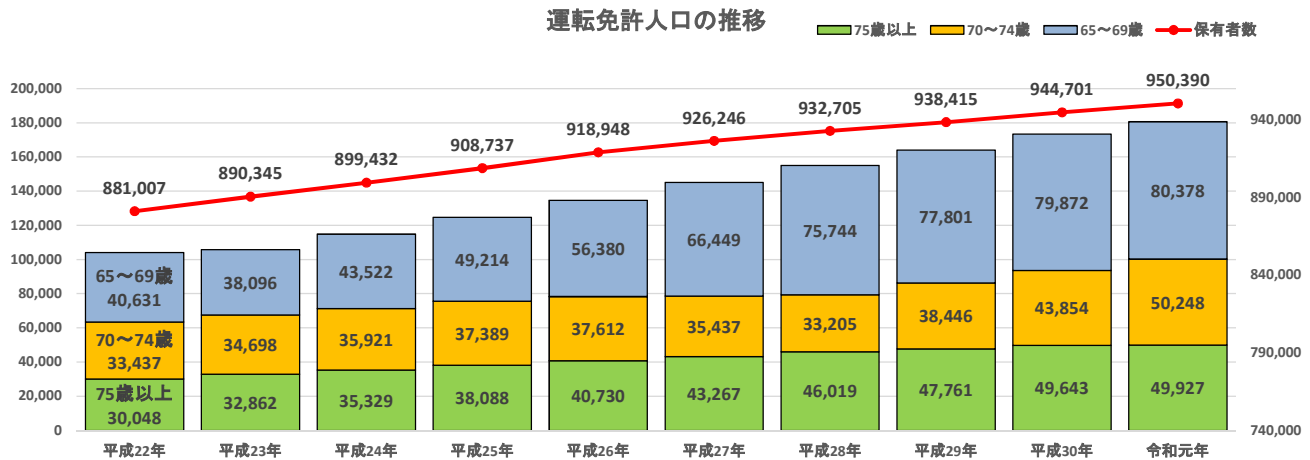
令和元年中のひき逃げ事件は、30件発生し、20件（66.7%）を検挙しました。
 また、ひき逃げ死亡事故はありませんでした。



	死 亡			重 傷			軽 傷			合 計		
	発生	検挙	検挙率	発生	検挙	検挙率	発生	検挙	検挙率	発生	検挙	検挙率
令和元年	0	0	-	4	2	50.0	26	18	69.2	30	20	66.7
平成30年	0	0	-	7	5	71.4	39	10	25.6	46	15	32.6
増減数	0	0	-	-3	-3	-21.4	-13	8	43.6	-16	5	34.1
増減率	-	-	-	-42.9	-60.0	-21.4	-33.3	80.0	43.6	-35	33.3	-34.1

第4 運転免許

32 運転免許人口の推移



県内の運転免許保有者数は950,390人で、前年比5,689人(0.6%)の増加となっています。
 高齢者の年齢層別では、65歳～69歳が80,378人(前年比 506人増)、70歳～74歳が50,248人(6,394人増)、75歳以上が49,927人(284人増)となっています。

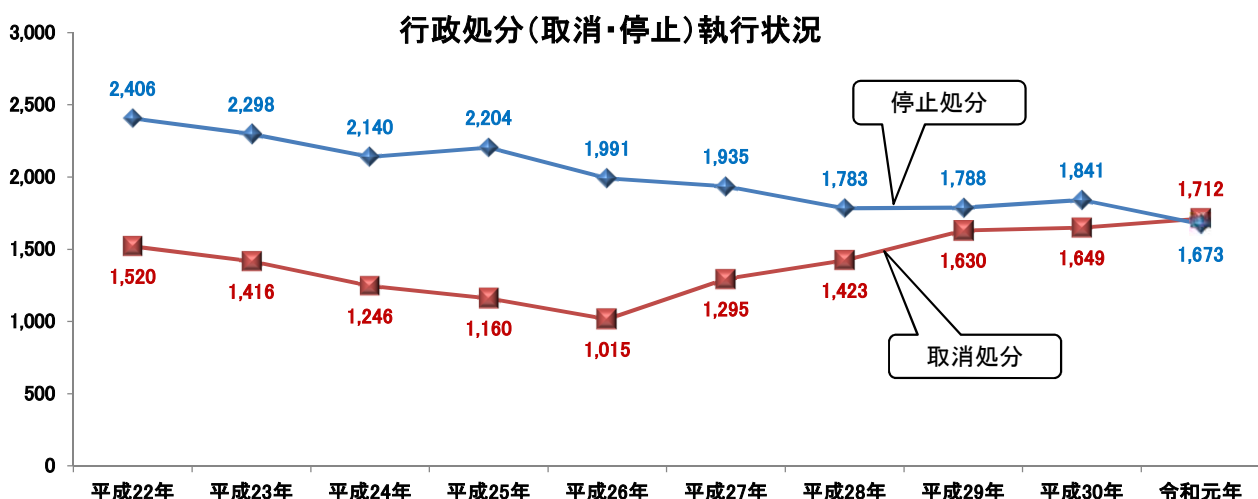
33 点数制度

点数制度は、交通違反や交通事故にあらかじめ一定の点数を付し、3年間の合計点数の多寡に応じて、免許の拒否、保留及び取消し、停止等の処分を行なうことを内容とする制度です。

点数の計算は、原則として処分の理由となる違反行為(一般違反行為及び特定違反行為)及び当該違反行為をした日から過去3年以内における違反点数を合計することとされています。

点数計算の例外として、違反行為をしないうで、免許を受けていた期間(当該免許の効力が停止されていた期間を除く。)が通算して1年となった場合は、その期間前の違反行為については、累積点数を計算する場合の「その他の違反行為」には含まれないこととされています。

34 行政処分執行状況の推移



令和元年中は、3,385人に対して行政処分を執行しており、うち取消処分を受けたのは1,712人、停止処分を受けたのは1,673人となっています。

令和元年中に停止処分を受けた者は、10年前(平成22年)より約3割減少しています。

35 運転免許証自主返納制度

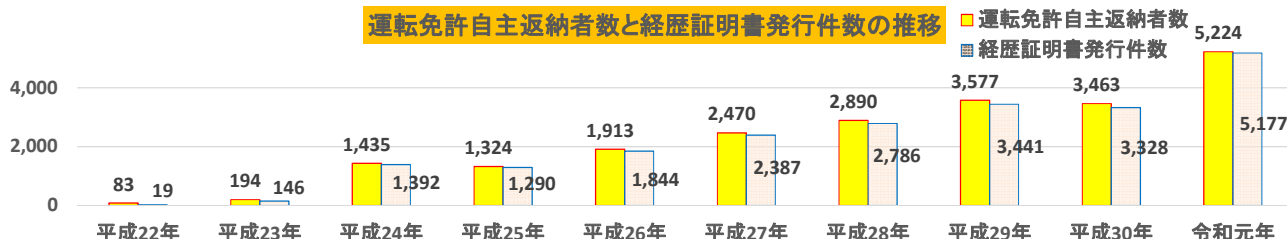
病気や高齢等の理由で運転免許の継続を希望しない運転者が、運転免許証を自主返納して運転免許の取消しを受ける制度です。

運転免許証を自主返納した場合は、申請により運転経歴証明書の交付を受けることができます。

沖縄県警察では、県内公共交通機関等の協力のもと公共交通機関の運賃割引や、眼鏡等の商品購入代及び温泉等保養施設利用料金の割引を受ける等の支援制度を設けています。

※令和1年12月の道路交通法の一部改正により、平成28年4月1日以降の失効者も申請できるようになりました。

運転免許自主返納者数と経歴証明書発行件数の推移



運転経歴証明書(見本)

受付場所・連絡先	受付(祝祭日、年末・年始の休日を除く。)
運転免許センター 豊見城市宇崎3番22 (電話 098-851-1000 免許第1係)	曜日 月曜日～金曜日 時間 午前8時30分～午前11時30分 午後1時00分～午後4時45分
安全運転学校中部分校 沖縄市南桃原4丁目27番22号 (電話 098-933-0442)	曜日 日曜日 時間 午後2時30分～午後4時00分
安全運転学校北部分校 名護市東江5丁目20番5号 (電話 0980-53-1301)	曜日 月曜日～金曜日 時間 午前8時30分～午前11時30分 午後1時00分～午後4時45分
安全運転学校宮古分校 宮古島市平良下里3107番地の4 (電話 0980-72-9990)	曜日 月曜日～金曜日 時間 午前8時30分～午前11時30分 午後1時00分～午後4時45分
安全運転学校八重山分校 石垣市平得343番地の2 (電話 0980-82-9542)	曜日 月曜日～金曜日 時間 午前9時30分～午前11時30分 午後1時00分～午後5時45分
各警察署交通課又は那覇警察署、沖縄警察署の交通対策課、離島指定駐在所等	

運転経歴証明書(見本)

住所 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 昭和〇〇年〇月〇日生

住所 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

交付 平成〇〇年〇月〇日 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

運転経歴証明書
(自動車等の運転はできません)

番号 第 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇 号

二六部 平成〇〇年〇月〇日 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

三三三 平成〇〇年〇月〇日 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇 公安委員会

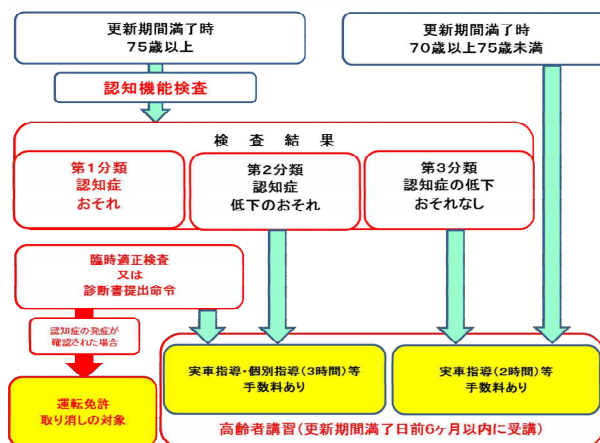
36 高齢者講習と認知機能検査

運転免許の有効期間が満了する日における年齢が70歳以上の免許保有者は運転免許の更新をする場合は、更新期間満了6ヶ月以内に高齢者講習を受講する必要があります。

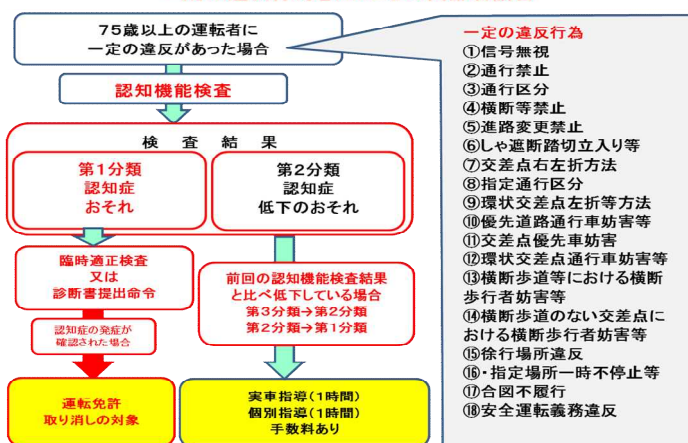
また、年齢が75歳以上の場合は、認知機能検査を受検後、その結果に応じた高齢者講習を受講する必要があります。認知機能検査の結果が「認知症のおそれあり」と判定された場合には、臨時適性検査又は主治医の診断書の提出命令を受け、認知症の発症が確認された場合、免許の取消し処分の対象となる。

※ 75歳以上の免許保有者が信号無視など18種の交通違反を行った場合、臨時認知機能検査を実施することとなり、臨時認知機能検査の結果が前回実施した認知機能検査の結果に比べ認知機能が低下している場合、臨時高齢者講習の

運転免許更新時の高齢者講習



一定の違反行為をしたときの高齢者講習



高齢者講習受講者数と認知機能検査受験者数の推移

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
高齢者講習	18,425	18,445	17,520	18,554	20,945	22,683	22,364	22,011	22,374	27,080
認知機能検査	第1分類	82	99	81	225	344	356	360	383	411
	第2分類	2,498	2,369	2,220	3,241	4,088	4,114	4,056	4,141	4,324
	第3分類	7,216	8,011	9,147	9,999	8,990	9,798	10,499	11,827	11,874
	計	9,796	10,479	11,448	13,465	13,422	14,268	14,915	16,351	16,609

第5 交通規制、交通安全施設

37 一般道路の交通規制実施状況

規制種別			実施状況	令和元年12月末累計	
				区間等	延長(m)
通行の禁止	歩行者用道路	歩行者天国・その他	0	0	
			118	46,785	
			219	55,326	
		計	337	102,111	
	上記通行禁止以外禁止	大型車通行止	218	105,470	
		特定貨物車等通行止	6	2,120	
		二輪以外の自動車通行止	5	16,415	
		車両通行止	16	10,608	
		二輪の自動車原付通行止	6	8,170	
		自転車通行止	7	8,220	
		バス以外の車両通行止め(バス専用道路)	5	5,480	
		自転車以外の車両通行止め	1	20	
		その他の通行止	5	2,457	
	計	269	158,960		
一方通行			640	154,740	
指定方向外進行禁止			1,364	—	
歩行者横断禁止			47	31,320	
中央線変移	交差点付近		69	6,034	
	その他		17	11,867	
追越しのための右側部分はみ出し通行禁止		片側	7	7,430	
		両側	406	1,059,342	
立入禁止部分			1	—	
専用通行帯	路線バス等	片側	22	32,090	
		両側	0	0	
	二輪車		0	0	
	自転車		0	0	
その他車両通行区分指定			19	114,788	
路線バス等優先通行帯		片側	0	0	
		両側	0	0	
軌道敷内通行可			0	0	
最高速度	区間	80km/h	0	0	
		70km/h	0	0	
		60km/h	4	22,150	
		50km/h	136	343,003	
		40km/h	1,197	1,634,960	
		30km/h	1,115	885,571	
		30km/h未満	224	89,722	
		小計	2,676	2,975,406	
	区域	40km/h	1	3,670	
		30km/h	33	141,675	
		20km/h	1	3,840	
		小計	35	149,185	
合計			2,711	3,124,591	
最低速度			0	0	
車両横断禁止			6	5,832	
転回禁止			84	32,426	
進路変更禁止			539	20,939	
追越し禁止	片側	側	0	0	
		両側	0	0	

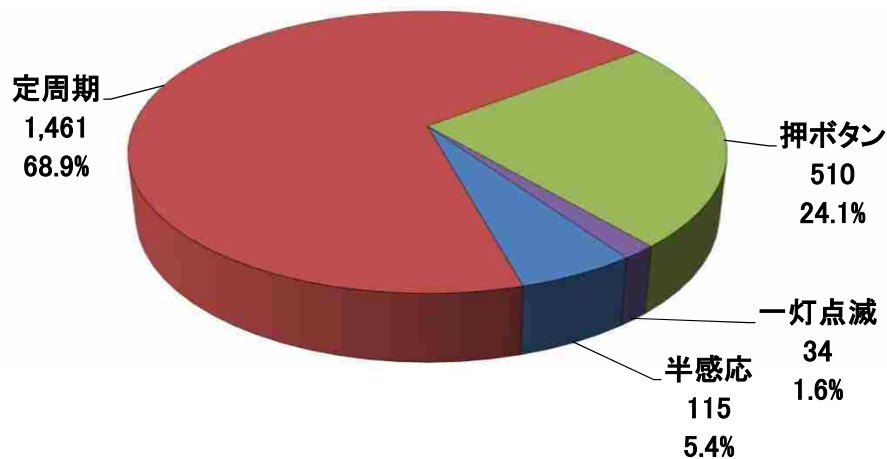
規 制 種 別			実 施 状 況		令和元年12月末累計	
					区間等	延長(m)
優先道路			2	630		
右左折の方法			12	－		
二段階右折 対象交差点	二段階右折 小回り指定		0	－		
			104	－		
環状の交差点における右回り通行			2	－		
進行方向別通行区分			639	－		
徐行(場所)			31	－		
一時停止			9,898	－		
駐停車 禁止	片側		20	12,671		
	両側		150	130,697		
駐車 禁止	区間	片側	60	41,375		
		両側	3,605	1,838,610		
	区域		1	－		
駐車 方法の 指定	平行		27	2,492		
	直角		2	190		
	斜め		2	58		
駐車可の指定			35	2,983		
停車可の指定			0	0		
時間制限 駐車区間	P・Mの 設置	片側	4	480		
		両側	1	430		
	P・T発給 設備の設置	片側	1	15		
		両側	0	0		
停止禁止部分			64	－		
警笛 鳴らせ	場所		8	－		
	区間		0	0		
普通自転車歩道通行可			82	830,269		
普通自転車の歩道通行部分			5	9,140		
普通自転車		交差点数	0	－		
交差点進入禁止		箇所数	0	－		
横断歩道	信号有		5,168	－		
	信号無		7,374	－		
斜め横断可			5	－		
安全地帯			0	－		
導流地帯			0	－		
路面電車停留場			0	－		
自転車 横断帯	信号有		23	－		
	信号無		41	－		
二段停止線		交差点数	0	－		
		箇所数	0	－		
左折可			61	－		

38 信号機の設置状況

令和元年12月末の信号機設置状況は、2,120基、うち半感应式が115基、定周期式が1,461基、押しボタン式が510基、一灯点滅式が34基となっています。

また、道路実延長10km当りの信号機設置状況は、那覇市が8.62基で最も多く、次いで宜野湾市7.28基、浦添市6.87基等の順となっています。

信号機設置状況



令和元年12月31日現在

市町村名	半感应	定周期	押しボタン	一灯点滅	計	人口	人口千人当 設置数	道路実延 長距離	10km当 設置数
那 覇 市	6	296	105	1	408	322,624	1.26	473.508	8.62
宜 野 湾 市	0	87	29	4	120	98,689	1.22	164.738	7.28
石 垣 市	1	62	17	5	85	49,562	1.72	496.561	1.71
浦 添 市	6	96	20	3	125	114,531	1.09	181.954	6.87
名 護 市	8	87	26	0	121	63,161	1.92	524.915	2.31
糸 満 市	4	69	21	1	95	61,811	1.54	271.542	3.50
沖 縄 市	7	142	49	2	200	142,217	1.41	429.772	4.65
豊 見 城 市	2	63	10	1	76	64,436	1.18	168.164	4.52
う る ま 市	8	126	49	1	184	123,976	1.48	566.232	3.25
宮 古 島 市	2	76	11	4	93	54,625	1.70	1,149.351	0.81
南 城 市	7	29	13	1	50	43,945	1.14	367.704	1.36
国 頭 村	2	2	3	0	7	4,746	1.47	173.255	0.40
大 宜 味 村	1	0	3	0	4	3,089	1.29	100.786	0.40
東 村	0	1	0	0	1	1,805	0.55	78.670	0.13
今 帰 仁 村	0	4	10	2	16	9,411	1.70	164.028	0.98
本 部 町	5	15	9	0	29	13,234	2.19	179.820	1.61
恩 納 村	14	14	20	0	48	11,038	4.35	92.099	5.21
宜 野 座 村	1	4	7	0	12	6,071	1.98	109.316	1.10
金 武 町	7	7	10	0	24	11,573	2.07	123.340	1.95
伊 江 村	0	3	1	0	4	4,593	0.87	190.226	0.21
読 谷 村	5	36	10	2	53	41,446	1.28	143.844	3.68
嘉 手 納 町	5	19	5	1	30	13,681	2.19	46.025	6.52
北 谷 町	1	43	5	1	50	29,097	1.72	108.071	4.63
北 中 城 村	0	30	6	0	36	17,345	2.08	93.151	3.86
中 城 村	7	16	18	1	42	21,284	1.97	127.880	3.28
西 原 町	4	35	10	0	49	35,322	1.39	124.653	3.93
与 那 原 町	1	21	10	0	32	19,810	1.62	53.985	5.93
南 風 原 町	4	47	11	1	63	39,348	1.60	124.460	5.06
渡 嘉 敷 村	0	0	1	0	1	725	1.38	19.880	0.50
座 間 味 村	0	0	1	0	1	942	1.06	27.119	0.37
粟 国 村	0	0	1	0	1	701	1.43	47.055	0.21
渡 名 喜 村	0	0	1	0	1	378	2.65	9.050	1.10
南 大 東 村	0	0	1	0	1	1,248	0.80	59.977	0.17
北 大 東 村	0	1	0	0	1	591	1.69	36.147	0.28
伊 平 屋 村	0	0	1	0	1	1,251	0.80	80.435	0.12
伊 是 名 村	0	0	1	0	1	1,430	0.70	86.107	0.12
久 米 島 町	0	3	4	0	7	7,873	0.89	226.287	0.31
八 重 瀬 町	7	23	10	3	43	31,338	1.37	269.436	1.60
多 良 間 村	0	1	0	0	1	1,172	0.85	127.094	0.08
竹 富 町	0	1	1	0	2	4,343	0.46	183.627	0.11
与 那 国 町	0	2	0	0	2	1,716	1.17	140.767	0.14
合計	115	1,461	510	34	2,120	1,476,178	1.44	8,141.031	2.60

注1 人口は、住民基本台帳による。(平成31年1月1日現在)

2 道路実延長距離は、沖縄県土木建築部道路施設現況調査(平成29年4月1日現在)による。(沖縄自動車道及び那覇空港自動車道は含まれない。)

第6 各種交通事故防止対策

39 飲酒絡み事故防止対策

1 飲酒運転根絶対策

県警察では、「沖縄県飲酒運転根絶条例」に基づいた県民総ぐるみの飲酒運転根絶活動を展開するため

- 飲酒運転根絶に向けた交通安全教育の推進
- 飲酒運転根絶県民大会の実施
- 「飲酒運転の根絶運動の日」(毎月1日)における取り組み
- 飲酒運転根絶対策優良事業所の認定
- 交通ボランティア等と連携した広報啓発
- コミュニティFMなどを活用した広報啓発
- 自治体等の電光掲示板を活用した広報啓発

など各種施策を関係機関・団体等を連携して推進しております。



【飲酒運転根絶講話の実施】



【飲酒運転根絶県民大会】



【交通ボランティアと連携した広報啓発活動】



【飲酒運転根絶対策優良事業所認定】



【コミュニティFMを活用した広報啓発活動】



【電光掲示板を活用した広報啓発活動】

2 沖縄県飲酒運転根絶条例 ～平成21年10月1日施行～

飲酒運転の根絶を図るためには、「沖縄県飲酒運転根絶条例」の制定趣旨にもありますように、県民ひとり一人が「飲酒運転をしない させない 許さない」社会環境の醸成に向けた取組が重要です。

沖縄県飲酒運転根絶条例 骨子

この条例は、県及び県民等が一体となって飲酒運転の根絶を図り、飲酒運転のない安全で安心な県民生活を実現することを目的とします。

- 県民は家庭や地域、職場で飲酒運転根絶の取り組みに努める
- 公職にある者は範を示すべき立場を深く自覚し、飲酒運転根絶に率先して取り組む
- 事業者は従業員に対し、飲酒運転根絶に関する教育、指導その他必要な措置を講ずるよう努める
- 飲食店、駐車場所所有者は、飲酒運転防止呼び掛けの文書掲示に努める
- 公安委員会は、再発防止の措置として飲酒運転をした者や、その者に酒類提供した飲食店等に対し必要な措置を講ずるものとする
- 県は、飲酒運転をした者及びその家族等からの相談に対して、再発防止のための助言その他必要な措置を講ずるものとする
- 公安委員会は、飲酒運転事故件数や違反者数などの情報を市町村別に作成し、インターネットなどで公表できる
- 県は、総合的な施策推進の基本方針を策定
- 根絶運動の日を毎月1日と定める

3 アルコールに関する正しい知識を！

○ アルコールの処理にかかる時間

飲んだアルコールが肝臓で分解され、体外に排出されるまでには、予想外に時間がかかります。

体内でのアルコールの処理は、体重1kgにつき、1時間で0.1グラムという速度です。たとえば体重60kgの人がアルコール20グラムを処理するには3～4時間かかります。これはあくまでも目安です。

日頃から飲み過ぎがたたって肝臓が弱っていたり、風邪薬を飲んでいたりすると、アルコールの処理はもっと時間がかかるかもしれません。

一晩寝たから大丈夫、では とおいけません！

知っていますか？ 二日酔い

それぞれのアルコール1単位の目安

チューハイ	泡盛	ビール
		
1単位 350ml アルコール度 7%	1単位 100ml アルコール度 25%	1単位 500ml アルコール度 5%

酒酔い運転

免許取り消し(欠格期間3年)

酒気帯び運転

0.15～0.25mg/ℓ 免許停止 90日
0.25mg/ℓ 以上 免許取り消し(欠格期間2年)

お酒を飲むときは翌日の仕事を考えて、寝ている間にアルコールが分解される適度の量を飲みましょう。



1単位のアルコールが抜ける(分解される)には、**約4時間**かかります。

左のように3単位飲むと…

8時間寝たからといってアルコールが身体で分解されるのは**2単位分**です。

つまり翌朝は**1単位残っている二日酔い状態**なのです。

沖縄県・沖縄県警察・沖縄県交通安全協会連合会

40 二輪車事故防止対策

1 二輪車事故の原因

二輪車事故の原因として、

- 二輪車は街路樹や車両の陰等に入りやすく、車の運転手から見えにくい
- 二輪車は車体が小さいので、四輪車と比べて速度や距離を見誤られやすいことが考えられます。

また、二輪車運転者の中には、ツーリング中の速度超過や無理な追越し、渋滞時のすり抜けや進路変更などの悪質・危険な運転をする者がおり、県内では二輪車事故が多く発生しているほか、交通マナーの悪さも問題となっています。

2 県警察の取組

県警察では、二輪車事故を防止するために、二輪車に対する指導取締りを徹底するとともに、

- 交通事故の実態や悲惨さを周知理解させるための交通安全講話
- 自動車学校の教習コースを活用した参加・体験・実践型の交通安全教育
- コミュニティFM局や広報誌等を活用した広報啓発活動

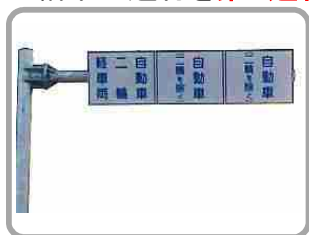
等のほか、県教育庁や沖縄県二輪車安全普及協会等の関係機関・団体と連携して、

- 高校に出向いての交通安全講話や、白バイ隊員による二輪車実技指導
- 二輪車販売店等と連携した街頭における二輪車点検指導等の事故防止対策等を推進しています。



【白バイ隊員による二輪車実技指導】 【高校生に対する二輪車実技指導】 【二輪車販売店と連携した街頭点検】

また、県内では、主要な幹線道路の国道58号、国道330号、国道329号などの総延長82kmの区間において、二輪車の通行を**第1通行帯に指定**する交通規制を実施しています。



二輪車運転者の皆さんへ！

第1通行帯とは、進行方法に向かって一番左側の車線のことです。

標識等で通行帯が指定されている場合、この車線を通行しなければなりません。



41 子供の事故防止対策

1 子供の事故の特徴

子供の交通事故の特徴として、

- 歩行中に事故に遭う割合が高い
- 他の年齢と比較して自転車乗車中の事故が多い
- 放課後の事故が多い
- 幼児は、自動車同乗中の事故が多い

ことなどが挙げられます。

2 県警察の取組

県警察では、新入学児童・園児を対象に4月から7月までの間、集中的に

- 子供自転車教室
- 腹話術による交通安全教育
- 模擬信号機を活用した正しい横断方法の指導

等を実施して子供の事故防止対策の他、小学校を母体とする交通少年団の結成の促進及び活動の支援を行なっています。



【子供自転車交通安全教室】



【新入園児、児童へ横断歩道の渡り方指導】



【腹話術による交通安全教室】



【交通少年団の結成・入団式】

42 自転車事故防止対策

1 自転車事故の原因

自転車事故の原因は、

- 交差点などにおける安全確認が不十分
- 車体が小さく、車両から見落とされやすい
- 免許が無くても乗れるため、自転車の交通ルールやマナーの意識に乏しいことが考えられます。

自転車は、誰もが気軽に乗れる便利な乗り物ですが、軽車両に分類され車両の仲間です。

自転車の交通ルールとマナーを守って、安全運転を心がけましょう。

■ 自転車安全利用五則

- 1 自転車は車道が原則、歩道は例外(※注)
- 2 車道は左側を通行
- 3 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
- 4 安全ルールを守る(飲酒運転の禁止、二人乗りの禁止、並進禁止、信号を守る等)
- 5 子どもはヘルメットを着用

※注 例外とは、普通自転車通行可の標識のある歩道は自転車でも通行することができます。

また、13歳未満の子ども、70歳以上の方については、「普通自転車歩道通行可」の標識がなくても歩道を走行することができます。)

2 県警察の取組

県警察では、自転車事故を防止するために、悪質な自転車利用者に対する指導・警告を実施するとともに、

- 小学生から高校生までを対象とした自転車教室の開催
- 交通ボランティア等と連携した街頭での自転車の安全な乗り方指導
- 自転車販売店等と連携した街頭での点検整備指導
- **制服警察官が自転車に乗車してのパトロールの実施**

等の事故防止対策を推進しています。



【子供自転車教室】



【街頭自転車指導】



【自転車パトロール】



【子供自転車大会】

県民のみなさまへ



自転車も 交通
ルールを守って
安全に走行しま
しょう！

歩道上で、自転車が歩行者にぶつかって怪我を負わせる事故も発生しています。
自転車は「くるま」の仲間(軽車両)ですので、一方通行を逆行することはできません。
自転車に乗車して歩道を自由気ままに歩行者感覚で走行させると大変危険です。

43 高齢者の事故防止対策

1 高齢者事故の特徴

高齢者事故の特徴として、

- 高齢者関連事故が年々増加傾向
- 高齢歩行者の死亡、重傷率が他の年齢と比較して高い
- 高齢運転者が原因となった交通事故の比率が他の年齢層と比較して高い
- 高齢運転者の死亡、重傷率が他の年齢より高いことなどが挙げられます。

高齢者の事故は、加齢に伴う身体機能の低下に伴い、判断能力、行動力等の遅れを招き、事故に遭遇していると考えられます。

2 県警察の取組

県警察では、高齢者事故を防止するため、

- 歩行者交通安全教育シミュレーター等を活用した参加・体験型の交通安全教育の実施
- 高齢歩行者に対する交通安全教育用チラシや反射シートの配布
- 安全運転サポート車体験による交通安全教室の開催
- 運転免許更新時における高齢者講習の実施
- 運転免許自主返納制度の支援活動の充実

等の交通安全教育を中心とした事故防止対策を推進しています。



【歩行者シミュレーターを活用した交通安全教育】



【安全運転サポート車体験による交通安全教育】



44 シートベルト・チャイルドシート着用促進対策

1 シートベルト・チャイルドシートの非着用の危険性

通常、成人が手や足で支えられる力は、体重の2倍程度と言われており、例えば60kgの成人男性がいざという時、支えられるのは120kgという事になります。それがどの程度の威力かという、時速約7キロになります。速度40キロで走行中に事故にあった場合に、体に加わる力は体重の10倍にも達し、そのため手足で支えきれず、

- 交通事故の衝撃で全身を車内で強打する可能性がある
- 交通事故の衝撃で車外に放り出される可能性がある
- 後部席で着用しなかった場合、前席の人と衝突し、両者が怪我をする可能性があることなどが挙げられます。

2 沖縄県のシートベルト・チャイルドシート着用率

平成30年に警察とJAFとの合同で実施したシートベルトの着用率を調査した結果、一般道路・高速道路いずれも全国最低レベルとなっています。

また、チャイルドシートについても同様な調査を行った結果、平均使用率は**50.0%**（全国平均**66.2%**）という極めて低い結果でした。

3 県警察の取組み

県警察では、シートベルト・チャイルドシートの着用・使用を徹底するため、

- 産婦人科や保育園の職員、保護者などにチャイルドシート着用の重要性を指導
 - チャイルドシートの正しい取付け方法の指導
 - シートベルトコンビンサーを活用した体験型交通安全教室
- 等の安全教育を中心とした事故防止対策を推進しています。



【シートベルトコンビンサーを活用した体験型交通安全教室】

		運転席	助手席	後部席
沖縄	一般道	97.6%	87.7%	9.7%
	高速道	99.3%	97.9%	49.6%

		運転席	助手席	後部席
全国	一般道	98.8%	95.9%	39.2%
	高速道	99.6%	98.3%	74.1%

【令和元年シートベルト着用率の全国調査結果】

シートベルト・チャイルドシートは正しく着用し、自分自身だけでなく同乗している家族や子供などの大切な命を守りましょう。

= 令和2年 =

◎年間スローガン

交通ルール 守るあなたも 金メダル

◎交通安全年間スローガン(最優秀作)

☆運転者(同乗者を含む)に対するもの

スマホより 横断歩道の 僕を見て

☆歩行者・自転車利用者に対するもの

夕暮れの 一番星は 反射材

☆こどもの交通事故防止に関するもの

しっかりと 止まってかくにん 横たん歩道

交通白書ダイジェスト(令和元年版)

編集 沖縄県警察本部交通部交通企画課

〒900-0021

沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号

電話番号 098-862-0110

(内線 5051・5052)

飲酒運転をしない、させない、許さない



STOP!!
飲酒運転